

サムエル前書

第一章一 エフライムの山地のラマタイムゾビムにエルカナと名くる人ありエフライテ人にしてエロハムの子なりエロハムはエリウの子エリウはトフの子トフはツフの子なり二エルカナに二人の妻ありてひとりの名をハンナといひひとりの名をペニナといふペニナには子ありたれどもハンナには子あらざりき三是人毎歳に其邑をいで上りてシロにおいて萬軍のエホバを拜み之に祭物をささぐ其處にエリの二人の子ホフ二とピネハスをりてエホバに祭司たり四 エルカナ祭物をささぐる時其妻ペニナと其すべての息子女子にわかちあたへしが五ハンナには其倍をあたふ是はハンナを愛するが故なりされどエホバ其孕みをとどめたまふ六 其敵もまた痛くこれをなやましてエホバが其はらみをとどめしを怒らせんとす七 歳々ハンナ、エホバの家のほるごとにエルカナかくなせしかばペニナかくのごとく之をなやます是故にハンナないてものくはざりき八 其夫エルカナ之にいひけるはハンナよ何故になくや何故にもものくはざるや何故に心かなしむや我は汝のために十人の子よりもまさるにあらずや九 かくてシロにて食飲せしちハンナたちあがりて時に祭司エリ、エホバの宮の柱の傍にある壇に坐す一〇ハンナ心にくるしみエホバにいのりて甚く哭き一 誓をなしていひけるは萬軍のエホバよ若し誠に婢の惱をかへりみ我を憶ひ婢を忘れ

ずして婢に男子をあたへたまはば我これを一生のあひだエホバにささげ剃髪刀を其首にあつまじ二ハンナ、エホバのまへに長くいのりければエリ其口に目をとめたり三ハンナ心の中にものいへば只唇うごくのみにて聲きこえず是故にエリこれを酔たる者と思ひ四之にいひけるは何時まで酔ひをるか爾の酒をされよ五ハンナこたへていひけるは主よ然るにあらず我は氣のわづらふ婦人にして葡萄酒をも濃き酒をものみす惟わが心をエホバのまへに明せるなり六 婢を邪なる女となすなかれ我はわが憂と悲みの多きよりして今までかたれり七 エリ答へていひけるは安んじて去れ願くはイスラエルの神汝の求むる願ひを許したまはんことを八ハンナイひけるはねがはくは仕女の汝のまへに恩をえんことをと斯てこの婦さりて食ひ其顔ふたたび哀しげならざりき九 是に於て彼等朝はやくおきてエホバの前に拜をしかへりてラマの家にいたる而してエルカナ其つまハンナとまじはるエホバ之をかへりみたまふ二〇ハンナ孕みてのち月みちて男子をうみ我これをエホバに求めし故なりとて其名をサムエル(エホバに聽る)となづく二 爰に其人エルカナ及び其家族みな上りて年々の祭物及び其誓ひし物をささぐ二 然どもハンナは上らず其夫にいひけるは我はこの子の乳はなれるに及びてのち之をたづさへゆきエホバのまへにあらはれしめ恒にかしこに居らしめん三 其夫エルカナ之にいひけるは汝の善と思ふところを爲し此子を乳ばなすまでとどまるべし

只エホバの其言を確實ならしめ賜んことをねがふと斯くこの婦止まりて其子に乳をのませ其ちはなれするをまちしが二四乳ばなせしとき牛三頭粉一斗酒一囊を取り其子をたづさへてシ口にあるエホバの家にいたる其子なほ幼稚し三五是に於て牛をころしその子をエリの許に携へゆきぬ二六ハンナいひけるは主よ汝のたましひは活くわれはかつてここにてなんぢの傍にたちエホバにいのりし婦なりニモわれ此子のためにいのりしにエホバが求めしものをあたへたまへり二八此故にわれまたこれをエホバにささげん其一生のあひだ之をエホバにささぐ斯てかしこにてエホバををがめり

第二章一ハンナ禱りて言けるは我心はエホバによりて喜び我角はエホバによりて高し我口はわが敵の上にはりひらく是は我汝の救拯によりて樂むが故なりニエホバのごとく聖き者はあらず其は汝の外に有る者なければなり又われらの神のごとき響はあることなし三汝等重ねて甚く誇りて語るなかれ汝等の口より漫言を出すなかれエホバは全知の神にして行爲を裁度りたまふなり四勇者の弓は折れ倒るる者は勢力を帯ぶ五飽足る者は食のために身を備はせ饑たる者は憩へり石女は七人を生み多くの子を有る者は衰ふるにいたる六エホバは殺し又生じたまひ陰府に下し又上らしたまふ七エホバは貧からしめ又富したまひ卑くしたま高くしたまふ八荏弱者を塵の中より擧げ窮乏者を埃の中より升せて王公の中に坐せしめ榮光の位をつがしめ給ふ地

の柱はエホバの所屬なりエホバ其上に世界を置きたまへり九エホバ其聖徒の足を守りたまはん惡き者は黑暗にありて黙すべし其は人力をもて勝つべからざればなり一〇エホバと争ふ者は破碎かれんエホバ天より雷を彼等の上にくだしエホバは地の極を審き其王に力を與へ其膏そそぎし者の角を高くし給はん二一エルカナ、ラマに往て其家にいたりしが稚子は祭司エリのまへにありてエホバにつかふニさてエリの子は邪なる者にしてエホバをしらざりきニ祭司の民に於る習慣は斯のごとし人祭物をささぐる時肉を煮るあひだに祭司の僕三の齒ある肉叉を手にとりて來り二四之を釜あるひは鍋あるひは鼎又は炮烙に突きいれ肉又の引きあぐるところの肉は祭司みなこれを己にとる是くシ口に於て凡てそこに來るイスラエル人になせり二五脂をやく前にも亦祭司のしもべ來り祭物をささぐる人にいふ祭司のために焼くべき肉をあたへよ祭司は汝より煮たる肉を受けず生腥の肉をこのむと二六もし其人これにむかひ直ちに脂をやくべければ後心のこのむままに取れといはは僕之にいふ否今あたへよ然らずば我強て取んと二七故に其壯者の罪エホバのまへに甚だ大なりそは人々エホバに祭物をささぐることをいとひたればなり一八サムエルなほ幼して布のエポデを着てエホバのまへにつかふ一九また其母これがために小き明衣をつくり歳毎にその夫とともに年の祭物をささげにのぼる時これをもちきたる二〇エリ、エルカナとその妻を祝していひけるは汝がエホバ

にささげたる者のためにエホバ此婦よりして子を汝にあたへたまはんことをねがふと斯てかれら其郷にかへる二しかしてエホバ、ハンナをかへりみたまひければハンナ孕みて三人の男子と二人の女子をつめり童子サムエルはエホバのまへにありて生育てり三ここにエリ甚だ老て其子等がイスラエルの人々になせし諸の事を聞きまた其集會の幕屋の門にいづる婦人たちと寝たるを聞いて三これにいひけるは何ぞ斯る事をなすや我このすべての民より汝らのあしき行をきく四わが子よ然すべからず我きくところの風聞よからず爾らエホバの民をしてあやまたしむ五人もし人にむかひて罪をかさば神をさばかんされど人もしエホバに向ひて罪をかさば誰かこれがためにとりなしをなさんやとしかれども其子父のことはを聴ざりきそはエホバかれらを殺さんと思ひたまへばなり二六童子サムエル生長ゆきてエホバと人とに愛せらる二七茲に神の人エリの許に來りこれにいひけるはエホバ斯くいひたまふ爾の父祖の家エジプトにおいてパロの家にありしとき我明かに之にあらはれしにあらざや二八我これをイスラエルの諸の支派のうちより選みてわが祭司となしわが壇の上に祭物をささげ香をたかしめ我前にエポデを衣しめまたイスラエルの人の火祭を悉く汝の父の家にあたへたり二九なんぞわが命せし犠牲と禮物を汝の家にてふみつくるや何ぞ我よりもなんぢの子をたふとみわが民イスラエルの諸の祭物の最も嘉きところをもて己を肥すや三〇是

ゆゑにイスラエルの神エホバいひたまはく我誠に曾ていへり汝の家およびなんぢの父祖の家永くわがまへにあゆまんと然ども今エホバいひたまふ決めてしからず我をたふとむ者は我もこれをたふとむ我を賤しむる者はかるんぜらるべし三視よ時いたらん我汝の腕と汝の父祖の家の腕を絶ち汝の家に老たるもの无らしめん三我大にイスラエルの善すべけれど汝の家には災見えん汝の家にはこののち永く老るものなかるべし三またわが壇より絶ざる汝の族の者は汝の目をそこなひ汝の心はいたましめん又汝の家に生まれいづるものは壯年にして死なん三四汝のふたりの子ホフニとピネスの遇ところの事を其徴とせよ即ち二人とも同じ日に死なん三五我はわがために忠信なる祭司をおこさん其人わが心とわが意にしたがひておこなはんわれその家をかたうせんかれわが膏そそぎし者のまへに恒にあゆむべし三六しかして汝の家にのこれる者は皆きたりてこれに屈み一厘の金と一片のパンを乞ひ且いはんねがはくは我を祭司の職の一に任じて些少のパンにても食ふことをえせしめよと

第三章 童子サムエル、エリのまへにありてエホバにつかふ當時はエホバの言まれにして黙示あること恒ならざりき二倍工り目漸くもりて見ることをえす此時其室に寝たり三神の燈なほきえずサムエル神の櫃あるエホバの宮に寝ぬ四時にエホバ、サムエルをよびたまふ彼我此にありといひて五エリの許に趨きいひけるは汝われをよぶ我ここにありエリいひけるは我よ

ず反りて臥よと乃ちゆきていぬ六 エホバまたかさねてサムエルよとよびたまへばサムエルおきてエリのもとにいたりいひけるは汝われをよぶ我ここにありエリこたへけるは我よばずわが子よ反りていねよ七サムエルいまだエホバをしらずまたエホバのことばいまだかれにあらはれず八エホバ、三たびめに又サムエルをよびたまへばサムエルおきてエリの許にたりいひけるは汝われをよぶ我ここにありとエリ乃ちエホバの童子をよびたまひしをさとる九故にエリ、サムエルにいひけるはゆきて寝よ彼若し汝をよばば僕聽くエホバ語りたまへといへとサムエルゆきて其室にいねしに一〇エホバ來りて立ちまへの如くサムエル、サムエルとよびたまへばサムエル僕よく語りたまへといふ二エホバ、サムエルにいひ賜けるは視よ我イスラエルのうちに一の事をなさんこれをきくものは皆其耳ふたつながら鳴ん三其日にはわれ嘗てエリの家について言しことを始より終までことごとくエリになすべし三われかつてエリに其惡事のために永くその家をさばかんとしめせりそは其子の詛ふべきことをなすをしりて之をとどめざればなり四是故に我エリのいへに誓ひてエリの家は惡は犠牲あるひは禮物をもて永くあがなふ能はずといへり五サムエル朝までいねてエホバの家の戸を開きしが其異象をエリにしめすことをおそる六エリ、サムエルをよびていひけるはわが子サムエルよ答へけるはわれここにあり七エリいひけるは何事を汝につげたまひしや請ふ我にかくすなか

れ汝もし其汝に告げたまひしところを一にてもかくすときは神汝にかくなし又かさねてかくなしたまへ八サムエル其事をことごとくしめして彼に隠すことなかりきエリいひけるは是はエホバなり其よしと見たまふことをなしたまへと九サムエルそだちぬエホバこれともいましてそのことばをして一も地におちざらしめたまふ二ダンよりベエルシバにいたるまでイスラエルの人みなサムエルがエホバの預言者とさだまれるをしれり三エホバふたたびシロにてあらはれたまふエホバ、シロにおいてエホバの言によりてサムエルにおのれをしめしたまふなりサムエルの言あまねくイスラエル人におよぶ第四章イスラエル人ペリシテ人にいであひて戰はんとしエベネゼルの邊に陣をとりペリシテ人はアベクに陣をとるニペリシテ人イスラエル人にむかひて陣列をなせり戰ふにおよびてイスラエル人ペリシテ人のまへにやぶるペリシテ人戰場において其軍四千人ばかりを殺せり三民陣營にいたるにイスラエルの長老曰けるはエホバ何故に今日我等をペリシテ人のまへにやぶりたまひしやエホバの契約の櫃をシロより此にたづさへ來らん其櫃われらのうちに來らば我らを敵の手よりすくひいだすことあらんと四かくて民人をシロにつかはしてケルビムの上に坐したまふ萬軍のエホバの契約の櫃を其處よりたづさへきたらしむ時にエリの二人の子ホフニとビネハス神の契約のはことともに彼處にありき五エホバの契約の櫃陣營にいたりしときイスラエ

人皆大によばはりさけびければ地なりひびけり六ペリシテ人
 喊呼の聲を聞いていひけるはへブル人の陣營に起れる此大なる
 さけびの聲は何ぞやと遂にエホバの櫃の其陣營にいたれるを知る
 セペリシテ人おそれいひけるは神陣營にいたる又いひける
 は嗚呼われら禍なるかな今にいたるまで斯ることなかりき八あ
 我等 禍なるかな誰かわれらを是らの強き神の手よりすく
 いださんや此等の神は昔し諸の災を以てエジプト人を曠野に撃
 し者なり九ペリシテ人よ強くなり豪傑のごとく爲せへブル人が
 かつて汝らに事へしごとく汝らこれに事ふるなかれ豪傑のご
 とく爲して戦へよ〇かくてペリシテ人戦ひしかばイスラエル人
 やぶれて各々其天幕に逃かへる戦死はなほだ多くイスラエルの
 歩兵の仆れし者三萬人なりき二又神の櫃は奪はれエリの二人
 の子ホフニとピネハス殺さる三是日ベニヤミンの一人軍中よ
 り走來り其衣を裂ぎ土をかむりてシロにいたる三其いたれる
 時エリ道の傍に壇に坐して觀望居たり其心に神の櫃のことを
 思ひ煩らひたればなり其人いたり邑にて人々に告げれば邑こそ
 りてさけびたり二四エリ此呼號の聲をききていひけるは是喧嘩
 の聲は何なるやと其人いそぎきたりてエリにつぐ二五時にエリ
 九十八歳にして其目がたまりて見ることあたはず一六其人エリ
 にいひけるは我は軍中より來れるもの我今日軍中より逃れたり
 エリいひけるは吾子よ事いかん七 使人答へていひけるはイス
 ラエル人ペリシテ人の前に逃げ且民の中に大なる戦死ありまた

汝の二人の子ホフニとピネハスは殺され神の櫃は奪はれたり一八
 神の櫃のことを演しときエリ其壇より仰けに門の傍におち頸を
 れて死ねり是はかれ老て身重かりければなり其イスラエルを鞠
 しは四十年なりき一九エリの媳ピネハスの妻孕みて子産ん時ち
 かかりしが神の櫃の奪はれしと舅と夫の死にしとの傳言を聞き
 かは其痛みおこりきたり身をかがめて子を産り二〇其死なんと
 する時傍にたてる婦人これにいひけるは懼るるなかれ汝男子
 を生りと然ども答へず又かへりみず三 只榮光イスラエルをさ
 りぬといひて其子をイカボデ（榮なし）と名く是は神の櫃奪は
 れしによりまた舅と夫の故に因るなり三またいひけるは榮光
 イスラエルをさりぬ神の櫃つばはれたればなり
 第五章 ペリシテ人神の櫃をとりて之をエベネゼルよりアシド
 ドにもちきたる二即ちペリシテ人神の櫃をとりて之をダゴンの
 家にもちきたりダゴンの傍に置ぬ三アシドド人次の日夙く興き
 エホバの櫃のまへにダゴンの俯伏に地にたふれををみ乃ちダ
 ゴンをとりて再びこれを本の處におく四また翌朝夙く興きエホ
 バの櫃のまへにダゴン俯伏に地にたふれをを見るダゴンの頭
 と其兩手門闕のうへに斷ち切れをり只ダゴンの體のみのこれ
 り五是をもてダゴンの祭司およびダゴンの家にいるもの今日に
 いたるまでアシドドにあるダゴンの闕をふまず六かくてエホバ
 の手おもくアシドド人にくははりエホバこれをほろぼし腫物を
 もてアシドドおよび其四周の人をくるしめたまふ七アシドド人

その斯るを見ていひけるはイスラエルの神の櫃を我らのうちに
 とどむべからず其は其手にたくわれらおよび我らの神ダゴンに
 くははればなり八是故人をつかはしてペリシテ人の諸君主を
 集めていひけるはイスラエルの神の櫃をいかにすべきや彼ら
 ひけるはイスラエルの神のはこはガテに移さんと遂にイスラエ
 ルの神のはこをつつす九之をつつせるのち神の手其邑にくはは
 りて滅亡るもの甚だおほし即ち老たると幼とをいはす邑の人
 をうちたまひて腫物人々におこれり一〇是において神のはこを
 エクロンにおくりたるに神の櫃エクロンにいたりしときエクロ
 ン人さけびていひけるは我等とわが民をころさんとてイスラエ
 ルの神のはこを我等にうつすと一かくて人を遣してペリシテ
 人の諸君主をあつめていひけるはイスラエルの神の櫃をおくり
 て本のところにかへさん然らば我等とわが民をころすことな
 らん蓋は邑中に恐ろしき滅亡おこり神の手甚だおもく其處に
 くははればなり二死なざる者は腫物にくるしめられ邑の號呼
 天に達せり

第六章一エホバの櫃七月のあひだペリシテ人の國にありニペリ
 シテ人祭司と卜筮師をよびていひけるは我らエホバの櫃をいか
 がせんや如何にして之をもとの所にかへすべきか我らにつげよ
 三答へけるはイスラエルの神の櫃をかへすときはこれを空しく
 かへすなかれ必ず彼に過祭をなすべし然なれば汝ら愈こ
 とをえ且彼の手の汝らをはなれざる故を知にいたらん四人々い

ひけるは如何なる過祭を彼になすべきや答へけるはペリシ
 テ人の諸君主の數にしたがひて五の金の腫物と五の金の鼠をつ
 くれは汝ら皆と汝らの諸伯におよべる災は一なるによる五汝
 らの腫物の像および地をあらす鼠の像をつくりイスラエルの神
 に榮光を販すべし庶幾はその手を汝等およびなんぢらの神と
 汝等の地にくはふることを軽くせん六汝らなんぞエジプト人と
 パロの其心を頑にせしごとくおのれの心をかたくなにするや
 神かれらの中に數度其力をしめせしのち彼ら民をゆかしめ民
 つひにさりしにあらすや七されば今あたらしき車一輛をつくり
 乳牛のいまだ軛をつけざるもの二頭をとり其牛を車に繋ぎ其轆
 をはなして家につれゆき八エホバの櫃をとりて之を其車に載せ
 汝らが過祭として彼になす金の製作物を櫃にをさめて其傍
 におき之をおくりて去らしめ九しかして見よ若し其境のみちよ
 りベテシメシにのぼらばこの大なる災を我らになせるものは彼
 なり若ししかせずば我等をうちしは彼れの手にあらずしてそのこ
 との偶然なりしをしるべし一〇人々つひに斯なし二つの乳牛を
 とりて之を車につなぎその轡を室にとぢこめ一エホバの櫃お
 よび金の鼠と其腫物の像ををさめたる轡を車に載す二牝牛直
 にあゆみてベテシメシの路をゆき鳴つつ大路をすすみゆきて
 右左にまがらずペリシテ人の君主ベテシメシの境まで其うし
 るにしたがひゆけり三時にベテシメシ人谷に麥を刈り居たり
 しが目をあげて其櫃をみ之を見るをよろこべり四車ベテシメ

シ人ヨシユアの田にいりて其處にとどまる此に大なる石あり人々車の木を劈り其牝牛を燔祭としてエホバにささげたり二五レビの人エホバの櫃とこれともなる櫃の金の製作物ををさめたる者を取りおろし之を其大石のうへにおくしかしてベテシメシ人此日エホバに燔祭をそなへ犠牲をささげたり一六ペリシテ人の五人の君主これを見て同じ日にエクロンにかへれり一七さてペリシテ人が過祭としてエホバにたせし金の腫物はこれなり即ちアシドドのために一ガザのために一アシケロンのために一ガテのために一エクロンのために一なりき一八また金の鼠は城邑と郷里をいはず凡て五人の君主に屬するペリシテ人の邑の數にしたがひて造れりエホバの櫃をおろせし大石今日にいたるまでベテシメシ人ヨシユアの田にあり一九ベテシメシの人々エホバの櫃をつかがひしによりエホバこれをうちたまふ即ち民の中七十人をつてりエホバ民をつちて大にこれをころしまひしかば民なきさけべり二〇ベテシメシ人いひけるは誰かこの聖き神たるエホバのまへに立つことをえんエホバ我らをはなれて何人のところのぼりゆきたまふべきや二一かくて使者をキリアテヤリムの人に遣はしていひけるはペリシテ人エホバの櫃をかへしたれば汝らくだりて之を汝らの所に携へのほるべし第七章一キリアテヤリムの人來りエホバのはこを携へのぼりこれを山のうへなるアピナダブの家にもちきたり其子エレアザルを聖てエホバの櫃をまもらしむ二其櫃キリアテヤリムにとどま

ること久しくして二十年をへたりイスラエルの全家エホバをしたひて歎けり三時にサムエル、イスラエルの全家に告ていひけるは汝らもし一心を以てエホバにかへり異なる神とアシタロテを汝らの中より棄て汝らの心をエホバに定め之にのみ事へなばエホバ汝らをペリシテ人の手より救ひださん四ここにおいてイスラエルの人々バアルとアシタロテをすててエホバにのみ事ふ五サムエルいひけるはイスラエル人をことごとくミズバにあつめよ我汝らのためにエホバにいのらん六かれらミズバに集り水を汲て之をエホバのまへに注ぎ其日斷食して彼處にいひけるは我等エホバに罪ををかしたりとサムエル、ミズバに於てイスラエルの人を鞠くセペリシテ人イスラエルの人々のミズバに集れるを聞しかばペリシテ人の諸君主イスラエルにせめのぼれりイスラエル人これを聞てペリシテ人をおそれたりハイラエルの人々サムエルに云けるは我らのために我らの神エホバに祈ることをやむるなかれ然らばエホバ我らをペリシテ人の手よりすくひださん九サムエル哺乳羊をとり燔祭となしてこれをまつたくエホバにささぐまたサムエル、イスラエルのためにエホバにいのりければエホバこれにこたへたまふ一〇サムエル燔祭をささげ居し時ペリシテ人イスラエル人と戦はんとて近づきぬ是日エホバ大なる雷をくだしペリシテ人をつちて之を亂し賜ければペリシテ人イスラエルのまへに敗れたり一イスラエル人ミズバをいでてペリシテ人をおひ之をつちてベテカルの下に

いたるニサムエル一の石をとりてミズバとセンの間に置きエホバはまで我らを助けたまへりといひて其名をエベネゼル（助けの石）と呼ぶニペリシテ人攻伏られて再びイスラエルの境にいらずサムエルの一生のあひだエホバの手ペリシテ人をふせげりニ四ペリシテ人のイスラエルより取たる邑々はエクロンよりガテまでイスラエルにかへりぬまた其周圍の地はイスラエル人これをペリシテ人の手よりとりかへせりまたイスラエル人とアモリ人と好をむすべりニサムエル一生のあひだイスラエルをさばきニ歳々ベテルとギルガルおよびミズバをめぐりて其處々にてイスラエル人をさばきニまたラマにかへり此處に其家あり此にてイスラエルをさばき又此にてエホバに壇をきづけり

第八章ニサムエル年老て其子をイスラエルの士師となすニ兄の名をヨエルといひ弟の名をアビヤといふベエルシバにありて士師たりニ其子父の道をあゆまずして利にむかひ賄賂をとりて審判を曲ぐ四是においてイスラエルの長老みなあつまりてラマにゆきサムエルの許に至りて五これにいひけるは視よ汝は老い汝の子は汝の道をあゆまずさればわれらに王をたててわれらを鞫かしめ他の國々のごとくならしめよと六その我らに王をあたへて我らを鞫かしめよといふを聞てサムエルよろこばず而してサムエル、エホバにいのりしかば七エホバ、サムエルにいひたまひけるは民のすべて汝にいふところのことはを聽け其は汝を

棄るにあらず我を棄て我をして其王とならざらしめんとするなりハかれらはわがエジプトより救ひいだせし日より今日にいたるまで我をすてて他の神につかへて種々の所行をなせしごとく汝にもまた然す九然れどもいま其言をきけ但し深くいさめて其治むべき王の常例をしめすべし一〇サムエル王を求むる民にエホバのことはをことごとく告て一いひけるは汝等ををさむる王の常例は斯のごとし汝らの男子をとり己れのために之をたてて車の御者となし騎兵となしまた其車の前驅となさんニまた之をおのれの爲に千夫長五十夫長となしまた其地をたがへし其作物を刈らしめまた武器と車器とを造らしめんニまた汝らの女子をとりて製香者となし厨婢となし爰輔者となさん一四又汝らの田畝と葡萄園と橄欖園の最も善きところを取て其臣僕にあたへ一五汝らの穀物と汝らの葡萄の什分一をとりて其官吏と臣僕にあたへ一六また汝らの僕婢および汝らの最も善き牛と汝らの驢馬を取ておのれのために作かしめ一七又汝らの羊の十分一をとり又汝らを其僕となさん一八其日において汝等己のために擇みし王のごとによりて呼號らんされどエホバ其日に汝らに聽たまはざるべし一九然るに民サムエルの言にしたがふことをせずしていひけるは否われらに王なかるべからず二〇我らも他の國々の如くになり我らの王われらを鞫きわれらを率て我らの戦にたたかはんニサムエル民のことはを盡く聞て之をエホバの耳に告ぐニエホバ、サムエルにいひたまひけるはか

れらのことばを聴きかれらのために王をたてよサムエル、イス
 ラエルの人々にいひけるは汝らのおの其邑にかへるべし
 第九章一茲にベニヤミンの人にてキシと名くる力の大なるもの
 ありキシはアビエルの子アビニルはゼロンの子ゼロンはベコラ
 テの子ベコラテはアビヤの子アビヤはベニヤミンの子なりニキ
 シにサウルと名くる子あり壯にして美はしイスラエルの子孫の
 中に彼より美はしき者たく肩より上民のいづれの人よりも高し
 三サウルの父キシの驢馬失ぬキシ其子サウルにいひけるは一人
 の僕をともし起ちてゆき驢馬を尋ねよ四サウル、ニフライム
 の山地を通り過ぎシヤリシヤの地を通りすけれども見あたらす
 シヤリムの地を通りすけれども居らずベニヤミンの地をとほり
 すけれども見あたらす五かれらツフの地にいたれる時サウル其
 ともなへる僕にいひけるはいざ還らん恐らくはわが父驢馬の事
 を措て我等の事を思ひ煩はん六僕これにいひけるは此邑に神
 の人あり尊き人にして其言ふところは皆必ず成る我らかしこ
 にいたらんかれ我らがゆくべき路をわれらにしめすことあらん
 七サウル僕にいひけるは我らもしゆかば何を其人におくらん
 か器のパンは既に鑿て神の人におくるべき禮物あらず何かある
 や八僕またサウルにこたへていひけるは視よわが手に銀一シ
 ケルの四分の一あり我これを神の人にあたへて我らに路をしめ
 さしめんと九昔しイスラエルにおいては人神にとはんとてゆく
 時はいざ先見者にゆかんといへり其は今この預言者は昔しは

先見者とよばれたればなり一〇サウル僕にいひけるは善くいへ
 りいざゆかんとて神の人のをる邑におもむけり一かれら邑に
 いる坂をのぼれる時童女數人の水くみにいづるにあひこれ
 ひけるは先見者は此にをるや二答ていひけるはをる視よ汝の
 まへにをる急ぎゆけ今日民崇邱にて祭をなすにより彼けふ邑に
 きたれり三汝ら邑にる時かれが崇邱にのぼりて食に就くまへ
 に直ちにかれにあはん其は彼まつ祭品を祝してしかるのち招
 かれたる者食ふべきに困りかれが来るまでは民食はざるなり故
 に汝らのぼれ今かれにあはんと二四かれら邑にのぼりて邑のな
 かにいるとき視よサムエル崇邱にのぼらんとてかれらにむかひ
 て出きたりぬ五エホバ、サウルのきたる一日まへにサムエルの
 耳につげていひたまひけるは六明日いまごろ我ベニヤミンの
 地より一箇の人を汝につかはさん汝かれに膏を注ぎてわが民イ
 スラエルの長となせかれわが民をベリシテ人の手より救ひだ
 さんわが民のさけび我に達せしにより我是をかへりみるなり七
 サムエル、サウルを見るときエホバこれにいひたまひけるは視
 よわが汝につげしは此人なり是人わが民ををさむべし八サウ
 ル門の中にてサムエルにちかづきいひけるは先見者の家はいづ
 くにあるや請ふ我につげよ九サムエル、サウルにこたへていひ
 けるは我はすなはち先見者なり汝わがまへにゆきて崇邱にのぼ
 れ汝ら今日我とともに食す可し明日われ汝をさらしめ汝の心に
 あることを悉く汝にしめさん一〇三日まへに失たる汝の驢馬は

既に見あたりたれば之をおもふなかれ抑もイスラエルの總ての
 寶は誰の者なるや即ち汝と汝の父の家のものならずやニサウ
 ルこたへていひけるは我はイスラエルの支派の最も小き支派な
 るベニヤミンの人にしてわが族はベニヤミンの支派の諸の族の
 最も小き者に非やなんぞ斯る事を我にかたるやニサムエル、サ
 ウルと其僕をみちびきて堂にいり招かれたる三十人ばかりの
 者の中の最も上に坐せしむニサムエル庖人にいひけるはわが
 汝にわたして汝の許におけといひし分をもちきたれニ四庖人肩
 と肩に屬る者を取りあげて之をサウルのまへに置くサムエルい
 ひけるは視よ是は存へおきたる物なり汝のまへにおきて食へ其
 はわれ民をまねきし時よりこれを汝の爲にたくはへおきたれば
 なりかくてサウル此日サムエルとともに食せりニ五崇邱をくだ
 りて邑にいりし時サムエル、サウルとともに屋背の上にてもの
 がたるニ六かれら早くおく即ちサムエル 曙に屋背の上なるサウ
 ルをよびていけるは起よわれ汝をかへさんとサウルすなはちお
 きあがるサウルとサムエルともに外にいでニ七邑の極處にくだ
 れるときサムエル、サウルにいひけるは僕に命じて我等の先に
 ゆかしめよ（僕先にゆく）しかして汝暫くとどまれ我汝に神
 の言をしめさん

第一〇章一サムエルすなはち膏の瓶をとりてサウルの頭に沃ぎ
 口接して曰けるはエホバ汝をたてて其産業の長となしたまふ
 にあらずやニ汝今日我をはなれて去りゆく時ベニヤミンの境

のゼルザにあるラケルの墓のかたはらにて二人の人にあふべし
 かれら汝にいはん汝がたづねにゆきし驢馬は見あたりぬ汝の父
 驢馬のことをすてて汝らのことをおもひわづらひわが子の事を
 いかがすべきやといへりとニ其處より汝尚すみてタボルの橡
 の樹のところのいたらん彼處にてベテルにのぼり神にまつで
 んとする三人の者汝にあはん一人は三頭の山羊羔を携へ一人
 は三團のパンをたづさへ一人は一囊の酒をたづさふ四かれら汝
 に安否をとひ二團のパンを汝にあたへん汝之を其手よりうく
 べし五其の後汝神のギベアにいたらん其處にペリシテ人の代
 官あり汝彼處にゆきて邑にいたるとき一群の預言者の瑟と鼓と
 笛と琴を前に執らせて預言しつつ崇邱をくだるにあはん六其の
 時神のみたま汝にのぞみて汝かれらとともに預言し變りて新し
 き人とならん七是らの徴汝の身におこらば手のあたるにまか
 せて事を爲すべし神汝とともにいませばなり八 汝我にさきだ
 ちてギルガルにくだるべし我汝の許にくだりて燔祭を供へ
 酬恩祭を献げんわが汝のもとに至り汝の爲すべきことを示すま
 で汝七日のあひだ待つべし九サケウル背をかへしてサムエルを
 離れし時神之に新しき心をあたへたまふしかして此しるし皆其
 日におこれり一〇ふたり彼處にゆきてギベアにいたれるとき
 よ一群の預言者これにあふしかして神の靈サウルにのぞみて
 サウルかれらの中にありて預言せりニ素よりサウルを識る
 人々サウルの預言者と偕に預言するを見て互ひにいひけるはキ

シの子サウル今何事にあふやサウルも預言者の中にあるやと三
 其處の人ひとり答へて彼等の父は誰ぞやといふ是故にサウル
 も預言者の中にあるやといふは諺となれり三サウル預言を終
 て宗邱にいたるに四サウルの叔父サウルと僕にいひけるは汝
 ら何處にゆきしやサウルいひけるは驢馬を尋ねに出しが何處に
 もをらざるを見てサムエルの許にいたれり五サウルの叔父い
 ひけるはサムエルは汝に何をいひしか請ふ我につげよ六サウ
 ル叔父にいひけるは明かに驢馬の見あたりしを告げたりと然れ
 どもサムエルが言る國王の事はこれにつげざりき七サムエル
 民をミツパにてエホバのまへに集め八イスラエルの子孫にい
 ひけるはイスラエルの神エホバ斯くいひたまふ我イスラエルを
 みちびきてエジプトより出し汝らをエジプト人の手および凡て
 汝らを虐遇る國人の手より救ひいだせり九然るに汝らおのれ
 を患難と難苦のうちより救ひいだしたる汝らの神を棄て且否わ
 れらに王をたてよといへり是故にいま汝等の支派と群にしたが
 ひてエホバのまへに出よ一〇サムエル、イスラエルの諸の支派を
 呼よせし時ベニヤミンの支派にあたりぬ二またベニヤミン
 の支派を其族のかずにしたがひて呼よせしときマテリの族に
 あたりキシの子サウルにあたり人々かれを尋ねしかども
 見出されば三またエホバに其人は此に来るや否やを問しにエ
 ホバ答たまはく視よ彼は行李のあひだにかくると三一人々はせ
 ゆきて彼を其處よりつれきたれり彼民の中になつに肩より以上

民の何の人よりも高かりき四サムエル民にいひけるは汝らエ
 ホバの擇みたまひし人を見らる民のうちには人の如き者とし民
 みなよばはりいひけるは願くは王いのちながかれ五時にサム
 エル王國の典章を民にしめして之を書にしるし之をエホバのま
 へに蔵めたりしかしてサムエル民をことごとく其家にかへらし
 む六サウルもまたギベアの家にかへるに神に心を感じられた
 る勇士等これとともにゆけり七然れども邪なる人々は彼人い
 かで我らを救はんやといひて之を蔑視り之に禮物をおくらざり
 しかどサウルは唾のごとくせり
 第一章一アンモ二人ナハシ、ギレアデのヤベシにのぼりて之
 を圍むヤベシの人々ナハシにいひけるは我らと約をなせ然らば
 汝につかへん二アンモ二人ナハシこれに答へけるは我かくして
 汝らと約をなさん即ち我汝らの右の目を抉りてイスラエルの
 全地に恥辱をあたへん三ヤベシの長老これにいひけるは我らに
 七日の猶予をあたへて使をイスラエルの四方の境におくること
 を得さしめよ而して若し我らを救ふ者なくば我ら汝にくだらん
 四斯て使サウルのギベアにいたり此事を民の耳に告しかば民皆
 聲をあげて哭きぬ五爰にサウル田より牛にしたがひて來るサウ
 ルいひけるは民何によりて哭くやと人々これにヤベシ人の事を
 告ぐ六サウル之を聞るとき神の靈これに臨みてその怒甚だし
 く燃えたち七一輓の牛をころしてこれを切り割き使の手をもて
 これをイスラエルの四方の境にあまねくおくりていはしめける

は誰にてもサウルとサムエルにしたがひて出ざる者は其牛かくのごとくせらるべしと民エホバを畏み一人のごとく均くいでありハサウル、ベゼクにてこれを數ふるにイスラエルの子孫三十萬ユダの人三萬ありき九斯て人々來れる使にいひけるはギレアデのヤベシの人にかくいへ明日日の熱き時汝ら助を得んと使かへりてヤベシの人に告げければ皆よろこびぬ○是をもてヤベシの人云けるは明日汝らに降らん汝らの善と思ふところを爲せ○明日サウル民を三隊にわかち曉更に敵の軍の中にいりて日の熱くなる時までアンモ二人をころしければ遣れる者は皆ちりぢりになりて二人俱にあるものなかりき○民サムエルにいひけるはサウル豈我らの王となるべけんやと言しは誰ぞや其人を引き來れ我ら之をころさん○サウルいひけるは今日エホバ救をイスラエルに施したまひたれば今日は人をころすべからず○茲にサムエル民にいひけるはいざギルガルに往て彼處にて王國を新にせんと○五民みなギルガルにゆきて彼處にてエホバのまへにサウルを王となし彼處にて酬恩祭をエホバのまへに獻げサウルとイスラエルの人人皆かしこにて大に祝へり第二章サムエル、イスラエルの人人にいひけるは視よ我汝らが我にいひし言をことごとく聽て汝らに王を立たり二見よ今王汝らのまへにあゆむ我は老て髪しるし視よわが子ども汝らと共にあり我幼稚時より今日にいたるまで汝等のまへにあゆめり○視よ我ここにありエホバのまへと其膏そそぎし者のまへ

に我を訴へよ我誰の牛を取りしや誰の驢馬をとりしや誰を掠めしや誰を虐遇しや誰の手より賄賂をとりてわが目を矇せしやわが我これを汝らにかへさん○彼らはいひけるは汝は我らをかすめずくるしめず又何をも人の手より取りしことなし○サムエルかれらにいひけるは汝らが我手のうちになにをも見いださざるをエホバ汝らに證したまふ其膏そそぎし者も今日證す彼ら答へけるは證したまふ○サムエル民にいひけるはエホバはモーセとアロンをたてし者汝らの先祖をエジプトの地より導きいだせしものなり○七立ちあがれエホバが汝らおよび汝らの先祖になしたまひし諸の義しき行爲につきて我エホバのまへに汝らと論ぜん○ハヤコブのエジプトにいたるにおよびて汝らの先祖のエホバに呼はりし時エホバ、モーセとアロンを遣はしたまひて此二人汝らの先祖をエジプトより導きいだして此處にすましめたり○九しかるに彼ら其神エホバを忘れしかばエホバこれをハゾルの軍の長シセラの手とペリシテ人の手およびモアブ王の手にわたしたまへり斯て彼らこれを攻ければ○民エホバに呼はりていひけるは我らエホバを棄てバアルとアシタロテに事へてエホバに罪を犯したりされど今我らを敵の手より救ひいだしたまへ我ら汝につかへんと○是においてエホバ、エルバアルとバラクとエフタとサムエルを遣はして汝らを四方の敵の手より救ひいだしたまひて汝ら安らかに住めり○二しかるに汝らアンモンの子孫の王ナハシの汝らを攻んとて來るを見て汝らの神エホバ汝ら

の王なるに汝ら我にいふ否我らををさむる王なかるべからずと
 二三 今汝らを選びし王汝らがねがひし王を見よ視よエホバ汝
 らに王をたてたまへり 四 汝らもしエホバを畏みて之につかへ
 其言にしたがひてエホバの命にそむかずまた汝らと汝らをを
 さむる王恒に汝らの神エホバに従はば善し 五 しかれども汝ら
 もしエホバの言にしたがはずしてエホバの命にそむかばエホバ
 の手汝らの先祖をせめしごとく汝らををせむべし 六 汝ら今たち
 てエホバが爾らの目のまへになしたまふ此大なる事を見よ 七
 今日 八 是は麥刈時にあらずや我エホバを呼んエホバ 雷と雨をくだ
 して汝らが王をもとめてエホバのまへに爲したる罪の大なるを
 見しらしめたまはん 八 かくてサムエル エホバをよびければエ
 ホバ其日 雷と雨をくだしたまへり民みな大にエホバとサムエ
 ルを恐る 九 民みなサムエルにいひけるは僕らのために汝の神
 エホバにいのりて我らを死なざらしめよ我ら諸の罪にまた王を
 求むるの惡をくはへたればなり 一〇 サムエル民にいひけるは懼
 るなかれ汝らこの總ての惡をなしたりされどエホバに従ふこと
 を怠らず心をつくしてエホバに事へ 一 虚しき物に迷ひゆくなが
 れ是は虚しき物なれば汝らを助くることも救ふことも得ざるな
 り 三 一 二 エホバ其大なる名のために此民をすてたまはざるべし其
 はエホバ汝らをおのれの民となすことを善としたまへばなり 二
 三 三 また我は汝らのために祈ることをやめてエホバに罪ををかす
 ことは決てせざるべし且われ善き正しき道をもて汝らををしへ

二四 汝ら只エホバをかしこみ心をつくして誠にこれにつかへ
 よ而して如何に大なることをエホバ汝らになしたまひしかを
 思ふ可し 二五 しかれども汝らもしなほ惡をなさば汝らと汝らの
 王ともほろぼさるべし
 第一章 サウル三十歳にて王の位に即く彼二年イスラエルを
 をさめたり 二 爰にサウル、イスラエル人三千を擇む其二千はサ
 ウルとともにミクマシおよびペテルの山地にあり其一千はヨナ
 タンとともにベニヤミンのギベアにあり其餘の民はサウルおの
 おの其幕屋にかへらしむ 三 ヨナタン、ゲバにあるペリシテ人の
 代官をころせりペリシテ人其之れをきく是においてサウル國中
 にあまねくラツパを吹ていはしめけるはへブル人よ聞くべし 四
 イスラエル人皆聞けるに云くサウル、ペリシテ人の代官を撃り
 しかしてイスラエル、ペリシテ人の中に惡まると斯て民めされ
 てサウルにしたがひギルガルにいたる五ペリシテ人イスラエル
 と戦はんとて集りけるが兵車三百騎兵六千にして民は濱の
 沙の多きがごとくなりき彼らのほりてベテアベンにむかへるミ
 クマシに陣をとれり 六 イスラエルの人苦められ其危きを見て
 皆巖穴に林叢に崗巒に高塔に坎阱にかくれたり 七 また或るへブ
 ル人はヨルダンを涉りてガドとギレアデの地にいたる然るにサ
 ウルは尚ギルガルにあり民皆戰慄て之にしたがふハサウル、サ
 ムエルの定めし期にしたがひて七日とどまりしがサムエル、ギ
 ルガルに來らず民はなれて散ければ 九 サウルいひけるは燔祭と

酬恩祭を我にもちきたれと遂に燔祭をささげたり。燔祭をささぐることを終しときに視よサムエルいたるサウル安否を問はんとてこれをいで迎ふにニサムエルいひけるは汝何をなせしやサウルいひけるは我民の我をなれてちりまた汝の定まれる日のうちに來らずしてペリシテ人のミクマシに集まれるを見しかばニペリシテ人ギルガルに下りて我をおそはんに我いまだエホバをなごめずといひて勉て燔祭をささげたりニサムエル、サウルにいひけるは汝おろかなることをなせり汝その神エホバのなんぢに命じたまひし命令を守らざりしなり若し守りしならばエホバ、イスラエルをさむる位を永く汝に定めたまひしならん。然ともいま汝の位たもたざるべしエホバ其心に適ふ人を求めてエホバ之に其民の長を命じたまへり汝がエホバの命ぜしことを守らざるによる。五かくてサムエルたちてギルガルよりベニヤミンのギベアにのぼりいたる。六サウルおのれとともにある民をかぞふるに凡そ六百人ありき。七サウルおよび其子ヨナタン並にこれとともにある民はベニヤミンのゲバに居りペリシテ人はミクマシに陣を張る。八劫掠人三隊にわかれてペリシテ人の陣よりいで一隊はオフラの路にむかひてシユアルの地にいたり。九一隊はベテホロンの道に向ひ一隊は曠野の方にあるゼボイムの谷をのぞむ境の路にむかふ。時にイスラエルの地のうち何處にも鐵工なかりき是はペリシテ人へブル人の劍あるひは槍を作ることを恐れたればなり。ニイスラエル人皆其

粗鋤斧未。即ち粗鋤三齒鋤斧の鋤に缺ありてこれを鍛ひ改ざんとする時又は鞭を尖らんとする時は常にペリシテ人の所にくだれり。三是をもて戰の日にサウルおよびヨナタンとともにある民の手には劍も槍も見えず只サウルと其子ヨナタンのみ持り。ニ茲にペリシテ人の先陣ミクマシの渡口に進む。第一四章。一時サウルの子ヨナタン武器を執る若者にいひけるはいざ對面にあるペリシテ人の先陣に涉りゆかんと然ど其父には告ざりき。ニサウル、ギベアの極においてミグロンにある石榴の樹の下に住まりしが俱にある民はおよそ六百人なりき。又アヒヤ、エポデを衣てともにをるアヒヤはアヒトプの子アヒトプはイカボデの兄弟イカボデはピネハスの子ピネハスはシロにありてエホバの祭司たりしエリの子なり。民ヨナタンの行けるをしらざりき。四ヨナタンの涉りてペリシテ人の先陣にいたらんとする渡口の間に此傍に巉巖あり彼傍にも巉巖あり。一の名をボゼツといひ。一の名をセネといふ。五其一是北に向ひてミクマシに對し。一に南にむかひてゲバに對す。六ヨナタン武器を執る少者にいふ。いざ我ら此割禮なき者ども。先陣にわたらん。エホバ我らのためにはたらきたまことあらん。多くの人をもて救ふも少き人をもてすくふもエホバにおいては妨げなし。七武器をとるもの之にいひけるは總て汝の心にあるところをなせ。進めよ。我汝の心にしたがひて汝とともにあり。八ヨナタンいひけるは見よ。我らかの人人のところ。にわたり身をかれらにあらはさん。九かれら若

し我らが汝らにいたるまでとどまれと斯く我らにいはば我らはこのままとどまりてかれらの所にのぼらじ。○されど若し我らのところののぼれとかくいには我らのぼらんエホバかれら我らの手にわたしたまふなり是を徴となさんと。斯て二人其身をペリシテ人の先陣にあらはしければペリシテ人いひけるは視よへブル人其かくれたる穴よりいで來ると。○すなはち先陣の人ヨナタンと其武器を執る者にこたへて我等の所に上りきたれ目に物見せんといひしかばヨナタン武器を執る者にいひけるは我にしたがひてのぼれエホバ彼らをイスラエルの手にわたしたまふなり。○ヨナタン攀のぼり其武器を執るもの之にしたがふペリシテ人ヨナタンのまへに仆る武器をとる者も後にしたがひて之をころす。○ヨナタンと其武器を取るもの手はじめに殺せし者およそ二十人此事田畑半段の内になれり。○五しかして野にある陣のものおよび凡ての民の中に戦慄おこり先陣の人および劫掠人もまたおのき地ふるひ動けり。是は神よりの戦慄なり。○ベニヤミンのギベアにあるサウルの戌卒望見しに視よペリシテ人の群衆くづれて此彼にちらばる。○七時にサウルおのれともなる民にいひけるは汝ら點驗て誰が我らの中よりゆきしかを見よとすなはちしらべたるにヨナタンとその武器を執るもの居らざりき。○サウル、アヒヤにエポデを持ちたれといふ其はかれ此時イスラエルのまへにエポデを著たれば也。○サウル祭司にかたれる時ペリシテ人の軍の騒いよいよましたりければ

サウル祭司にいふ姑く汝の手を措けと。○かくてサウルおよびサウルと共にある民皆呼はりて戦ひに至るにペリシテ人おのの劍を以て互に相撃ちければその敗績はなほ大なりき。○また此時よりまへにペリシテ人ともにありてペリシテ人と共に上りて陣に來るところのへブル人もまた翻へりてサウルおよびヨナタンと共にあるイスラエル人に合せり。○又エフライムの山地にかくれたるイスラエル人皆ペリシテ人の逃るを聞てまた戦ひに出て之を追撃り。○是の如くエホバ此日イスラエルをすくひたまふ而して戦はベテアベンにつつれり。○されど此日イスラエル人苦めり其はサウル民を誓はせて夕まで即ちわが敵に仇をむくゆるまでに食物を食ふ者は呪詛れんと言たればなり。是故に民の中に食物を味ひし者なし。○爰に民みな林森に至りて地の表に蜜あり。○即ち民森にいたりて蜜のながるるをみる然ども民誓を畏るれば誰も手を口につくる者なし。○然にヨナタンは其父が民をちかはせしを聞きければ手にある杖の末をのばして蜜にひたし手を口につけたり。是に由て其目あきらかなりぬ。○時に民のひとり答て言けるは汝の父かたく民をちかはせて今日食物をくらふ人は呪詛はれんと言り。是に由て民つかれたり。○ヨナタンいひけるはわが父國を煩せり請ふ我がこの蜜をすこしく嘗しによりて如何にわが目の明かになりしかを見よ。○ましてや民今日敵よりうばひし物を十分に食しならばペリシテ人をころすこと更におほかるべきにあらずや。○イスラ

エル人かの日ペリシテ人を撃てミクマシよりアヤロンにいたる
 而して民はなほだ疲たり^三是において民劫掠物に走かり羊
 と牛と犢とを取りて之を地のうへにころし血のままに之をくら
 ふ^三人々サウルにつげていひけるは民肉を血のままに食ひて
 罪をエホバにをかすとサウルいひけるは汝ら背けり直ちにわが
 もとに大石をまるばしきたれ^四サウルまたいひけるは汝らわ
 かれて民のうちにいりていへ人各其牛と各其羊をわがもと
 に引ききたり此處にてころしくらへ血のままにくらひて罪をエ
 ホバに犯すなかれと此において民おのおのこの夜其牛を手ひ
 ききたりて之をかしこにころせり^五しかししてサウル、エホバに
 一つの壇をきづく是はサウルのエホバに壇を築ける始なり^{三六}
 斯てサウルいひけるは我ら夜のうちにペリシテ人を追くだり
 夜明までかれらを掠めて一人をも残すまじ皆いひけるは凡て汝
 の目に善とみゆる所をなせと時に祭司いひけるは我ら此にちか
 より神にもとめんと^{三七}サウル神に我ペリシテ人をおひくだる
 べきか汝かれらをイスラエルの手にわたしたまふやと問けれど
 此日はこたへたまはざりき^{三八}是においてサウルいひけるは民
 の長たちよ皆此にちかよれ汝らみて今日のこの罪のいづくにあ
 るを知れ^{三九}イスラエルを救ひたまへるエホバはいく假令わが
 子ヨナタンにもあれ必ず死なざるべからずとされど民のうち
 一人もこれにこたへざりき^{四〇}サウル、イスラエルの人々にいひ
 けるはなんぢらは彼處にをれ我とわが子ヨナタンは此處にをら

んと民いひけるは汝の目によしとみゆるところをなせ^{四一}サウ
 ル、イスラエルの神エホバにいひけるはねがはくは眞實をしめ
 したまへとかくてヨナタンとサウル籜にあたり民はのがれたり
 四二サウルいひけるは我とわが子のあひだの鬪を撃けと即ちヨ
 ナタンこれにあたり^{四三}サウル、ヨナタンにいひけるは汝がな
 せしところを我に告よヨナタンつけていひけるは我は只わが手
 の杖の末をもて少許の蜜をなめしのみなるが我しなざるをえず
 四四サウルこたへけるは神かくなしまたかさねてかくなしたま
 へヨナタンよ汝死ざるべからず^{四五}民サウルにいひけるはイス
 ラエルの中に此大なるすくひをなせるヨナタン死ぬべけんや
 決めてしからずエホバは生くヨナタンの髪の毛とすぢも地に
 おつべからず其はかれ神とともに今日はたらきたればなりとか
 く民ヨナタンをすくひて死なざらしむ^{四六}サウル、ペリシテ人を
 追ことを怠てのぼりぬペリシテ人其國にかへれり^{四七}かくてサ
 ウル、イスラエルの王の位につきて四方の敵を攻む即ちモアブ、
 アンモンの子孫エドム、ゾバの王たちおよびペリシテ人をせめ
 けるに凡てむかふところにて勝利を得たり^{四八}サウル力をえア
 マレク人をうちてイスラエルを其劫掠人の手よりすくひいだせ
 り^{四九}サウルの男子はヨナタン、アスイおよびマルキシユアなり
 そのふたり、女子の名は姉はメラブといひ妹はミカルといふ^{五〇}サ
 ウルの妻の名はアヒノアムといひてアヒマアズの子なり其軍
 の長の名はアブネルといひてサウルの叔父なるネルの子なり^{五二}

サウルの父キシとアブネルの父ネルはアビエルの子なり五三サウルの一生のあひだ恒にペリシテ人と烈しき戦ありサウルは力ある人または勇ある人を見ることにこれをかかへたり

第一章一茲にサムエル、サウルにいひけるはエホバ我をつかはし汝に膏を沃ぎて其民イスラエルの王となさしめたりさればエホバの言の聲をきけ二萬軍のエホバかくいひたまふ我アマレクがイスラエルになせし事すなはちエジプトよりのぼれる時其途を遮りしをかへりみる三今ゆきてアマレクを撃ち其有る物をことごとく滅しつくし彼らを憐むなかれ男女童稚哺乳兒牛羊駱駝驢馬を皆殺せ四サウル民をよびあつめてこれをテライムに核ふ歩兵二十萬ユダの人一萬あり五しかしてサウル、アマレクの邑にいたりて谷に兵を伏たり六サウル、ケ二人にいひけるは汝らゆきてさりアマレク人をはなれくだるべし恐らくはかれらとともに汝らをほろぼすにいたらんイスラエルの子孫のエジプトよりのぼれる時汝らこれに恩みをほどこしたりと即ちケ二人アマレク人をはなれてさりぬ七サウル、アマレク人をうちてハビラよりエジプトの東面なるシユルにいたるハサウル、アマレク人の王アガグを生擒り刃をもて其民をことごとくほろぼせり九然ども、サウルと民アガグをゆるしまた羊と牛の最も嘉きもの及び肥たる物並に羔と凡て善き物を殘して之をほろぼしつくすをこのまず但悪き弱き物をほろぼしつくせり一〇時にエホバの言サムエルにのぞみていはく二我サウルを王とな

せしを悔ゆ其は彼背きて我にしたがはずわが命をおこなはざればなりとサムエル憂て終夜エホバによばはれり三かくてサムエル、サウルにあはんとて夙早起けるにサムエルにつぐるものありていふサウル、カルメルにいたり勝利の表を立て轉り進みてギルガルにくだれりと三サムエル、サウルの許に至りければサウルこれにいひけるは汝がエホバより福祉を得んことをねがふ我エホバの命を行へりと四サムエルいひけるは然らばわが耳にいる此羊の聲およびわがきく牛のこゑは何ぞや五サウルいひけるは人々これをアマレク人のところより引ききたれり其は民汝の神エホバにささげんために羊と牛の最も嘉きものをのこせばなり其ほかは我らほろぼしつくせり六サムエル、サウルにいけるは止まれ昨夜エホバの我にかたりたまひしことを汝につげんサウルいひけるはいへ七サムエルいひけるはさきに汝が微き者とみづから憶へる時に爾イスラエルの支派の長となりしに非ずや即ちエホバ汝に膏を注いでイスラエルの王となせり八エホバ汝を途に遣はしていひたまはく往て惡人なるアマレク人をほろぼし其盡るまで戦へよと九何故に汝エホバの言をきかずして敵の所有物にはせかかりエホバの目のまへに惡をなせしや一〇サウル、サムエルにひけるは我誠にエホバの言にしたがひてエホバのつかはしたまふ途にゆきアマレクの王アガグを執きたりアマレクをほろぼしつくせり二ただ民其ほろぼしつくすべき物の最初としてギルガルにて汝の神エホバ

にささげんとて敵の物の中より羊と牛をとれり三サムエルいひけるはエホバはその言にしたがふ事を善したまふごとく燔祭と犠牲を善したまふや夫れ順ふ事は犠牲にまさり聴く事は牡羔の脂にまさるなり三其は違逆は魔術の罪のごとく抗戻は虚しき物につかふる如く偶像につかふるがごとし汝エホバの言を棄たるによりエホバもまた汝をすてて王たざらしめたまふ二四サムエル、サムエルにいひけるに我エホバの命と汝の言をやぶりて罪ををかしたり是は民をおそれて其言にしたがひたるによりてなり二五されば今ねがはくはわがつみをゆるし我とともにかへりて我をしてエホバを拜することをえさしめよ二六サムエル、サムエルにいひけるは我汝とともにかへらじ汝エホバの言を棄たるによりエホバ汝をすててイスラエルに王たらしめたまはざればなり二七サムエル去らんとて振還しときサムエルその明衣の裾を捉へしかば裂たり二八サムエルかれにいひけるは今日エホバ、イスラエルの國を裂て汝よりはなし汝の隣なる汝より善きものにこれをあたへたまふ二九またイスラエルの能力たる者は誑らず悔ず其はかれは人にあらざればくゆることなし三〇サムルいひけるは我罪ををかしたれどねがはくはわが民の長老のまへおよびイスラエルのまへにて我をたふとみて我とともにかへり我をして汝の神エホバを拜むことをえさしめよ三二ここにいてサムエル、サムエルにしたがひてかへるしかしてサムエル、エホバを拜む三三時にサムエルいひけるは汝らわが許にア

マレクの王アガグをひききたれとアガグ喜ばしげにサムエルの許にきたりアガグいひけるは死の苦みは必ず過ぎりぬ三三サムエルいひけるに汝の劍はおほくの婦人を子なき者となせりかくのごとく汝の母は婦人の中の最も子なき者となるべしとサムエル、ギルガルにてエホバのまへにおいてアガグを斬り三四かくてサムエルはラマにゆきサムエルはサムルのギベアにのぼりてその家にいたる三五サムエル其しぬる日までふたたびきたりてサムエルをみざりしかれどもサムエル、サムルのためにかなしめりまたエホバはサムエルをイスラエルの王となせしを悔たまへり第一六章一爰にエホバ、サムエルにいひたまひけるは我すでにサムエルを棄てイスラエルに王たらしめざるに汝いつまでかれのために歎くや汝の角に膏油を満してゆけ我汝をベテレヘム人エサイの許につかはさん其は我其子の中にひとり王を尋ねえたればなり二サムエルいひけるは我いかで往くことをえんサムエル聞て我をころさんエホバいひたまひけるは汝一犢を携へゆきて言へエホバに犠牲をささげんために來ると三しかしてエサイを犠牲の場によべ我汝が爲すべき事をしめさん我汝に告るところの人に膏をそそぐ可し四サムエル、エホバの語たまひしごとくなしてベテレヘムにいたる邑の長老おそれて之をむかへいひけるは汝平康なる事のためにきたるや五サムエルいひけるは平康なることのためなり我はエホバに犠牲をささげんとてきたる汝ら身をきよめて我とともに犠牲の場にきたれと斯てエサ

イと其諸子を潔めて犠牲の場によびきたる六かれらが至れる時サムエル、エリアブを見ておもへらくエホバの膏そそぐものは必ず此人ならんともしかるにエホバ、サムエルにいひたまひけるは其容貌と身長を觀るなかれ我すでにかれをすてたりわが視るところは人に異なり人は外の貌を見エホバは心を見るなりハエサイ、ヘアビナダブをよびてサムエルのまへを過しむサムエルいひけるは此人もまたエホバ擇みたまはずエサイ、シヤンマを過しむサムエルいひけるは此人もまたエホバえらみたまはず○エサイ其七人の子をしてサムエルの前をすぎしむサムエル、エサイにいふエホバ是等をえらみたまはずニサムエル、エサイにいひけるは汝の男子は皆此にをるやエサイいひけるは尚季子のこれり彼は羊を牧をるなりとサムエル、エサイにいひけるは彼を迎へきたらしめよかれが此にいたるまでは我ら食に就かざるべしニ是において人をつかはしてかれをつれきたらしむ其人色赤く目美しくして其貌麗しエホバいひたまひけるは起てこれにあぶらを沃げは其人なりニサムエル膏の角をとりと其兄弟の中にてこれに膏をそそげり此日よりのちエホバの靈ダビデにのぞむサムエルはたちてラマにゆけり二四かくてエホバの靈サムエルをはなれエホバより來る惡鬼これに惱せり二五サウルの臣僕これにいひけるは視よ神より來れる惡鬼汝をなやます二六ねがはくはわれらの主汝のまへにつかふる臣僕に命じて善く琴を鼓く者一人を求めしめよ神よりきたれる惡鬼汝

に臨む時彼手をもて琴を鼓て汝いゆることをえんニサムエル臣僕にいひけるはわがために巧に鼓琴をたづねてわがもとにつれきたれニ八時に一人の少者こたへていひけるは我ベテレヘム人エサイの子を見しが琴に巧にしてまた豪氣して善くたたかふ辯舌さはやかなる美しき人なりかつエホバこれともいまずニ九サムルすなはち使者をエサイにつかはしていひけるは羊をかふ汝の子ダビデをわがもとに遣はせと○エサイすなはち驢馬にパンを負せ一囊の酒と山羊の羔を執りてこれを其子ダビデの手によりてサウルにおくれりニダビデ、サウルの許にいたりて其まへに事ふサウル大にこれを愛し其武器を執る者となすニサムル人をエサイにつかはしていひけるはねがはくはダビデをしてわが前に事へしめよ彼れはわが心にかなりとニ神より出たる惡鬼サウルに臨めるときダビデ琴を執り手をもてこれを弾にサウル慰さみて愈え惡鬼かれをはなる

第一七章一爰にペリシテ人其軍を集めて戦はんとしユダに屬するシヨコにあつまりシヨコとアゼカの間なるバスタグミムに陣をとるニサウルとイスラエルの人々集まりてエラの谷に陣をとりペリシテ人にむかひて軍の陣列をたつニペリシテ人は此方の山にたちイスラエルは彼方の山にたつ谷は其あひだにあり四時にペリシテ人の陣よりガテのゴリアテと名くる挑戦者いできたる其身の長六キュビト半五首に銅の盔を戴き身に鱗綴の鎧甲を着たり其よろひの銅のおもさは五千シケルなり六また脛

には銅の脛當を着け肩の間に銅の矛戟を負ふ七其槍の柄は機のはり梁のごとく槍の鋒刃の鐵は六百シケルなり橋を執る者其前にゆくハゴリアテ立てイスラエルの諸行伍によはり云けるは汝らはなんぞ陣列をなして出きたるや我はペリシテ人にして汝らはサウルの臣下にあらずや汝ら一人をえらみて我とこころにだせ九其人もし我とたたかひて我をころすことをえば我ら汝らの臣僕とならんされど若し我かちてこれを殺さば汝ら我らの僕となりて我らに事ふ可し一〇かくて此ペリシテ人いひけるは我今日イスラエルの諸行伍を挑む一人をいだして我と戦はしめよとニサウルおよびイスラエルみなペリシテ人のこの言を聞き驚きて大に懼れたりニ抑ダビデはかのベテレヘムユダのエフラタ人エサイとなづくる者の子なり此人八人の子ありしがサウルの世には年邁みてすでに老たりニエサイの長子三人ゆきてサウルにしたがひて戦争にいづ其戦にいでし三人の子の名は長をエリアブといひ次をアヒナダブといひ第三をシャンマといふニ四ダビデは季子にして其兄三人はサウルにしたがへりニ五ダビデはサウルに往來してベテレヘムにて其父の羊を牧ふニ六彼ペリシテ人四十日のおひだ朝夕近づきて前にたてりニ七時にエサイ其子ダビデにいひけるは今汝の兄のために此烘麥一斗と此十のパンを取りて陣營にをる兄のところにいそぎゆけニ八また此十の乾酪をとりて其千夫の長におくり兄の安否を視て其返事をもちきたれとニ九サウルと彼等およびイスラエルの人は

皆ペリシテ人とたたかひてエラの谷にありきニ〇ダビデ朝夙くおきて羊をひとりの牧者にあづけエサイの命せしごとく携へゆきて軍營にいたるに軍勢いでて行伍をなし鯨波をあげたりニ一しかしてイスラエルとペリシテ人陣列をたてて行伍を行伍に相むかはせたりニ三ダビデ其荷をおろして荷をまもる者の手にわたりし行伍の中にはせゆきて兄の安否を問ふニ三ダビデ彼等と俱に語れる時視よペリシテ人の行伍よりガテのペリシテのゴリアテとなづくる彼の挑戦者のほりきたり前のことばのごとく言しかばダビデ之を聞けりニ四イスラエルの人其人を見て皆逃て之をはなれ痛く懼れたりニ五イスラエルの人いひけるは汝らこのほり來る人を見しや誠にイスラエルを挑んとて上りきたるなり彼をころす人は王大なる富を以てこれをとまし其女子をこれにあたへて其父の家にはイスラエルの中に租税をまぬかれしめんニ六ダビデ其傍にたてる人々にかたりていひけるは此ペリシテ人をころしイスラエルの耻辱を雪ぐ人には如何なることをなすや此割禮なきペリシテ人は誰なればか活る神の軍を搦むニ七民まへのごとく答へていひけるはかれを殺す人には斯のごとくせらるべしとニ八兄エリアブ、ダビデが人々とかたるを聞しかばエリアブ、ダビデにむかひて怒りを發しいひけるは汝なのために此に下りしや彼の野にあるわづかの羊を誰にあづけしや我汝の傲慢と悪き心を知る其は汝戦争を見んとて下ればなりニ九ダビデいひけるは我今なにをなしたるや只一言にあ

らずやと三〇又ふりむきて他の人にむかひ前のごとく語れるに
 民まへのごとく答たり三一 人々ダビデが語れる言をききてこれ
 をサウルのまへにつげければサウルかれを召す三二 ダビデ、サウ
 ルにいひけるは人々かれがために氣をおとすべからず僕ゆきて
 かのペリシテ人とたたかはん三三 サウル、ダビデにいひけるは汝
 はかのペリシテ人をむかへてたたかふに勝ず其は汝は少年な
 るにかれは若き時よりの戰士なればなり三四 ダビデ、サウルに
 いひけるは僕さきに父の羊を牧るに獅子と熊と來りて其群の羔
 を取たれば三五 其後をおひて之を搏ち羔を其口より援ひいだせ
 りしかして其獸我に猛りかかりたれば其鬚をとらへてこれを
 撃ちころせり三六 僕は既に獅子と熊とを殺せり此割禮なきペリ
 シテ人活る神の軍をいどみたれば亦かの獸の一のごとくなるべし
 三七 ダビデまたいひけるはエホバ我を獅子の爪と熊の爪より
 援ひいだしたまひたれば此ペリシテ人の手よりも援ひいだした
 まはんとサウル、ダビデにいふ往けねがはくはエホバ汝ととも
 にいませ三八 是においてサウルおのれの戎衣をダビデに衣せ銅
 の盔を其首にかむらせ亦鱗綴の鎧をこれにきせたり三九 ダビデ
 戎衣のうへに劍を佩て往かんことを試む未だ驗せしことなけ
 ればなりしかしてダビデ、サウルにいひけるは我いまだ驗せし
 ことなければ是を衣ては往くあたはずと四〇 ダビデこれを脱ぎ
 すて手に杖をとり谿間より五の光滑なる石を拾ひて之を其持て
 る牧羊者の具なる袋に容れ手に投石索を執りて彼ペリシテ人に

ちかづく四一 ペリシテ人進みきてダビデに近づけり楯を執るも
 の其まへにあり四二 ペリシテ人環視てダビデを見て之を藐視る
 其は少くして赤くまた美しき貌なればなり四三 ペリシテ人ダビ
 デにいひけるは汝杖を持てきたる我豈犬ならんやとペリシテ
 人其神の名をもつてダビデを呪詛ふ四四 しかしてペリシテ人ダ
 ビデにいひけるは我がもとに來れ汝の肉を空の鳥と野の獸にあ
 たへんと四五 ダビデ、ペリシテ人にいひけるは汝は劍と槍と矛戟
 をもて我にきたる然ど我は萬軍のエホバの名すなはち汝が擲み
 たるイスラエルの軍の神の名をもて汝にゆく四六 今日エホバ汝
 をわが手に付したまはんわれ汝をつちて汝の首級を取りペリシ
 テ人の軍勢の尸體を今日空の鳥と地の野獸にあたへて全地を
 してイスラエルに神あることをしらしめん四七 且又この群衆み
 なエホバは救ふに劍と槍を用ひたまはざることをしるにいたら
 ん其は戰はエホバによれば汝らを我らの手にわたしたまはんと
 四八 ペリシテ人すなはち立あがり進みちかづきてダビデをむか
 へしかばダビデいそぎ陣にはせゆきてペリシテ人をむかふ四九
 ダビデ手を囊にいれて其中より一つの石をとり投てペリシテ人
 の額を撃ければ石其額に突きいりて俯伏に地にたふれたり五〇
 かくダビデ投石索と石をもてペリシテ人にかちペリシテ人をつ
 ちて之をころせり然どダビデの手に劍なかりしかば五一 ダビ
 デはしりてペリシテ人の上のにり其劍を取て之を鞘より抜き
 はなしこれをもて彼をころし其首級を斬りたり爰にペリシテの

人々其勇士の死るを見てにげしかば五ニイスラエルとユダの人
 おこり喊呼をあげてペリシテ人をおひガテの入口およびエクロ
 ンの門にいたるペリシテ人の負傷人シヤライムの路に休れてガ
 テおよびエクロンにおよぶ五ニイスラエルの子孫ペリシテ人を
 おぶてかへり其陣を掠む五四ダビデかのペリシテ人の首を取り
 て之をエルサレムにたづさへきたりしが其甲冑はあれの天幕
 におけり五五サウル、ダビデがペリシテ人にむかひて出るを見て
 軍長アブネルにいひけるはアブネル此少者はたれの子なるや
 アブネルいひけるは王汝の靈魂は生くわれしらざるなり五六王
 いひけるはこの少年はたれの子なるかを尋ねよ五七ダビデかの
 ペリシテ人を殺してかへれる時アブネルこれをひきて其ペリシ
 テ人の首級を手にもてるままサウルのまへにつれゆきければ五八
 サウルかれにいひけるは若き人よ汝はたれの子なるやダビデこ
 たへけるは汝の僕ベテレヘム人エサイの子なり
 第一八章一ダビデ、サウルにかたることを終しときヨナタンの
 心ダビデの心にむすびつきてヨナタンあれの命のごとくダ
 ビデを愛せりニ此日サウル、ダビデをかかへて父の家にかへら
 しめず三ヨナタンあれの命のごとくダビデを愛せしかばヨナ
 タンとダビデ契約をむすべり四ヨナタンあれの衣たる明衣を
 脱てダビデにあたふ其戎衣および其刀も弓も帯もまたしかせ
 り五ダビデは凡てサウルが遺はずところにいでゆきて功をあら
 はしければサウルかれを兵隊の長となせりしかしてダビデ民の

心にかなひ又サウルの僕の心にもかなふ六衆人かへりきたれる
 時すなはちダビデ、ペリシテ人をころして還れる時婦女イスラ
 エルの呂々よりいできたり七鼓と祝歌と磬をもちて歌ひまひつ
 つサウル王を迎ふ七婦人踊躍つつ相こたへて歌ひけるはサウル
 は千をうち殺しダビデは萬をうちころすと八サウル甚だ怒りこ
 の言をよるこぼすしていひけるは萬をダビデに歸し千をわれに
 歸す此上かれにあたふべき者は唯國のみと九サウルこの日より
 後ダビデを目がけたり一〇次の日神より出たる悪鬼サウルにの
 ぞみてサウル家のなかにて預言したりしかばダビデ故のごとく
 手をもつて琴をひけり時にサウルの手に投槍ありければ一サ
 ウル我ダビデを壁に刺とほさんといひて其投槍をさしあげしが
 ダビデ二度身をかはしてサウルをさけたりニエホバ、サウルを
 はなれてダビデと共にいますによりてサウル彼をおそれたり三
 是故にサウル彼を遠ざけて千夫長となせりダビデすなはち民
 のまへに出入す一四またダビデすべて其ゆくところにて功をあ
 らはし且エホバかれともにいませり一五サウル、ダビデが大に
 功をあらはすをみてこれを恐れたり一六しかれどもイスラエル
 とユダの人はみなダビデを愛せり彼が其前に出入するによりて
 なり一七サウル、ダビデにいひけるはわれわが長女メラブを汝
 に妻さん汝ただわがために勇みエホバの軍に戦ふべしと其はサ
 ウルわが手にてかれを殺さでペリシテ人の手にてころさんとお
 もひたればなり一八ダビデ、サウルにいひけるは我は誰ぞわが命

はなんぞわが父の家はイスラエルにおいて何なる者ぞや我いか
 でか王の婿となるべけんと九然るにサウルの女子メラブはダ
 ビデに嫁ぐべき時におよびてメホラ人アデリエルに妻されたり
 二〇サウルの女ミカル、ダビデを愛す人これを王に告げればサ
 ウル其事を善しとせり二 サウルいひけるは我ミカルをかれに
 あたへて彼を謀る手段となしペリシテ人の手にてかれを殺さん
 といひてサウル、ダビデにいひけるは汝今日ふたたびわが婿と
 なるべし三 かくてサウル其僕に命じけるは汝ら密にダビデに
 かりて言へ視よ王汝を悦び王の僕みな汝を愛すされば汝王
 の婿となるべしと三 サウルの僕此言をダビデの耳に語りしか
 ばダビデいひけるは王の婿となること汝らの目には易き事とみ
 ゆるや且われは貧しく賤しき者なりと二四 サウルの僕サウルに
 つげてダビデ是の如くかたりといへり二五 サウルいひけるは
 なんぢらかくダビデにいへ王は聘禮を望まずただペリシテ人
 の陽皮一百をえて王の仇をむくいんことを望むとははサウル、
 ダビデをペリシテ人の手に殞没しめんとおもへるなり二六 サウ
 ルの僕此言をダビデにつげしかばダビデは王の婿となること
 を善とせり斯て其時いまだ満ざるあひだに二七 ダビデ起て其
 従者とともにゆきペリシテ人二百人をころして其陽皮をたづ
 さへきたり之を悉く王にささげて王の婿とならんとすサウル乃
 はち其女ミカルをダビデに妻せたり二八 サウル見てエホバのダ
 ビデとともにいますを知りぬまたサウルの女ミカルはダビデ

を愛せり二九 サウルさらにますますダビデを恐れサウル一生の
 あひだダビデの敵となれり三〇 爰にペリシテ人の諸伯攻きたり
 しがダビデかれらが攻めきたることにサウルの諸の臣僕よりは
 多の功をたてしかば其名はなはだ尊まる
 第一九章一 サウル其子ヨナタンおよび諸の臣僕にダビデをこ
 さんとすることを語れり二 されどサウルの子ヨナタン深くダビ
 デを愛せしかばヨナタン、ダビデにつげていひけるはわが父サ
 ウル汝をころさんことを求むこのゆゑに今ねがはくは汝翌朝
 謹恪で潜みをりて身を隠せ三 我いでゆきて汝がをる野にてわが
 父の傍にたちわが父とともに汝の事を談はんしかして我其事の
 如何なるを見て汝に告ぐべし四 ヨナタン其父サウルに向ひダビ
 デを褒揚ていひけるは願くは王其僕ダビデにむかひて罪をを
 かすなかれ彼は汝に罪をかさずまた彼が汝になす行爲ははな
 はだ善し五 またかれは生命をかけてかのペリシテ人をころした
 りしかしてエホバ、イスラエルの人々のためにおほいなる救を
 ほどこしたまふ汝見てよろこべりしかるに何ぞゆゑなくして
 ダビデをころし無辜者の血をながして罪をかさんとすや六
 サウル、ヨナタンの言を聴いれサウル誓ひけるはエホバはいく
 われかならずかれをころさじ七 ヨナタン、ダビデをよびてヨナ
 タン其事をみなダビデにつげ遂にダビデをサウルの許につれき
 たりければダビデさきのごとくサウルの前にをる八 爰に再び
 戦争おこりぬダビデすなはちいでてペリシテ人とたたかひ大に

かれらを殺せしかばかれら其まへを逃げされり九サウル手に投槍を執て室に坐する時エホバより出たる惡鬼これにのりうつれり其時ダビデ乃ち手をもて琴を弾く○サウル投槍をもてダビデを壁に刺とほさんとしたりしがダビデ、サウルのまへを避ければ投槍を壁に衝たてたりダビデ其夜逃さりぬ○サウル使者をダビデの家につかはしてかれを守らしめ朝におよびてかれをころさしめんとすダビデの妻ミカル、ダビデにつけていひけるは若し今夜爾の命を援ずば明朝汝は殺されんとニミカル即ち牖よりダビデを縫おろしければ往て逃されり○斯てミカル像をとりて其牀に置き山羊の毛の編物を其頭におき衣服をもて之をおほへり○サウル、ダビデを執ふる使者をつかはしければミカルいふかれは疾ありとニサウル使者をつかはしダビデを見させんとていひけるはかれを牀のまま我にたづさきたれ我これをころさん○使者いりて見たるに牀には像ありて其頭に山羊の毛の編物ありき○サウル、ミカルにいひけるはなんぞかく我をあざむきてわが敵を逃しやりしやミカル、サウルにこたへけるは彼我にいへり我をはなちてさらしめよ然らずば我汝をころさんとニダビデにげさりてラマにゆきサムエルの許にいたりてサウルがおのれになせしことをことごとくつげたりしかしてダビデとサムエルはゆきてナヨテにすめり○九サウルに告る者ありていふ視よダビデはラマのナヨテにをると○サウル乃ちダビデを執ふる使者をつかはせしが彼等預言者の一群

の預言しをりてサムエルが其中の長となりて立てるを見るにおよび神の靈サウルの使者にのぞみて彼等もまた預言せり○二人々これを告げればサウル他の使者を遣しけるにかれらも亦預言せしかばサウルまた三度使者を遣はしけるが彼等もまた預言せり○是においてサウルもまたラマにゆきけるがセクの大井にいたれる時間ていひけるはサムエルとダビデは何處にをるや答ていふラマのナヨテにをる○サウルかしこにゆきてラマのナヨテに至りけるに神の靈また彼にのぞみて彼ラマのナヨテにいたるまで歩きつつ預言せり○四彼もまた其衣服をぬぎずて同じサムエルのまへに預言し其一日一夜裸體にて仆臥たり是故に人々サウルもまた預言者のうちにあるかといふ

第二〇章　ダビデ、ラマのナヨテより逃きたりてヨナタンにいひけるは我何をなし何のあしき事あり汝の父のまへに何の罪を得てか彼わが命を求むる○ヨナタンかれにいひけるは汝決して殺さることあらじ視よわが父は事の大きなも小なるも我につげずしてなすことなしわが父なんぞこの事を我にかくさんやこの事しからずニダビデまた誓ひていひけるは汝の父必ずわが汝のまへに恩恵をうるを知る是をもてかれ思へらく恐らくはヨナタン悲むべければこの事をかれにしらしむべからずとしかれどもエホバはいくまたなんぢの靈魂はいくわれは死をさること只一步のみ○ヨナタン、ダビデにいひけるはなんぢの心なにをねがふか我爾のために之をなさんとニダビデ、ヨナタンにいひ

けるは明日は月朔なれば我王とともに食につかざるべからず然ども我をゆるして去らしめ三日の晩まで野に隠ることをえさしめよ六 若汝の父まことに我をもとめなば其時言へダビデ切に其邑ベレヘムにはせゆかんことを我に請り其は彼處に全家の歳祭あればなりと七 彼もし善しといはば僕やすからんされど彼もし甚しく怒らば彼の害をくはへんと決し僕を知れ八 汝エホバのまへに僕と契約をむすびたれば願くは僕に恩をほどかせ然ど若我に悪き事あらば汝自ら我をこそせ何ぞ我を汝の父に引ゆくべけんや九 ヨナタンいひけるは斯る事かならず汝にあらざれ我わが父の害を汝にくはへんと決るをしらば必ず之を汝につげん〇ダビデ、ヨナタンにいひけるは若し汝の父荒々しく汝にこたふる時は誰か其事を我に告ぐべきや二 ヨナタン、ダビデにいひけるは來れ我ら野にいでゆかんと俱に野にいでゆけり三しかしてヨナタン、ダビデにいひけるはイスラエルの神エホバよ明日か明後日の今ごろ我わが父を窺ひて事のダビデのために善きを見ながら人を汝に遣はして告しらすばエホバ、ヨナタンに斯なしました重て斯くなしたまへ三されど若しわが父汝に害をくはへんと欲せば我これを告げしらせて汝をにがし汝を安らかにさらしめん願くはエホバわが父とともに坐せしごとく汝とともにいませ四 汝只わが生るあひだエホバの恩を我にしめて死ざらしむるのみならず五 エホバがダビデの敵を悉く地の表より絶ちさりたまふ時にもまた汝わが家を永く汝の恩にはな

れしむるなかれ一六 かくヨナタン、ダビデの家と契約をむすぶエホバ之に關てダビデの敵を討したまへり一七 しかしてヨナタンふたたびダビデに暫はしむかれを愛すればなり即ちおのれの生命を愛することく彼を愛せり一八 またヨナタン、ダビデにいひけるは明日は月朔なるが汝の座空かるべければ汝求めらるべし一九 汝三日とどまりて速かに下り嘗てかの事の日に隠れたるところに至りてエゼルの石の傍に居るべし二〇 我的を射ることくして其石の側に三本の矢をはなたん二一 しかしてゆきて矢をたづねよといひて童子をつかはすべし我もし故に童子に視よ矢は汝の此旁にあり其を取と曰ばなんぢきたるべしエホバは生く汝安くして何もなかるべければなり二三 されど若し我少年に視よ矢は汝の彼旁にありといはば汝さるべしエホバ汝をさらしめたまふなり二三 汝と我とかたれることについては願はくはエホバ恒に汝と我との間にいませと四 ダビデ即ち野にかくれぬ楮月朔になりければ王坐して食に就く二五 即ち王は常のごとく壁によりて座を占むヨナタン立あがりアブネル、サウルの側に坐すダビデの座はなむし二六 されど其日にはサウル何をも曰ざりき其は何事か彼におこりしならん彼きよからず定て潔からずと思ひたればなり二七 明日すなはち月の二日におよびてダビデの座なほ虚しサウル其子ヨナタンにいひけるは何ゆゑにサウルの子は昨日も今日も食に來らざるや二八 ヨナタン、サウルにこたへけるはダビデ切にベレヘムにゆかんとを我にこひて曰け

るは三元ねがはくは我をゆるしてゆかしめよわが家邑にて祭を
 なすによりわが兄我にきたることを命ぜり故に我もし汝のまへ
 にめぐみをえたるならばねがはくは我をゆるして去しめ兄弟
 をみることを得さしめよと是故にかれは王の席に來らざるなり
 三〇サウル、ヨナタンにむかひて怒りを發しかれにいひけるは汝
 は曲り且悖れる婦の子なり我あに汝がアサイの子を簡みて汝の
 身をばづかしめまた汝の母の膚を辱しむることを知らんや三
 アサイの子の此世にながらふるあひだは汝と汝の位固くたつ
 を得ず是故に今人をつかはして彼をわが許に引きたれば死め
 べき者なり三一ヨナタン父サウルに對へていひけるは彼な
 よりて殺さるべきか何をなしたるやと三二ここにおいてサウル、
 ヨナタンを撃んとて投槍をさしあげたりヨナタンすなはち其父
 のダビデを殺さんと決しをしれり三四かくてヨナタン烈しく怒
 りて席を立ち月の二日には食をなさざりき其は其父のダビデを
 はづかしめしによりてダビデのために憂へたればなり三五翌朝
 ヨナタン一童子を従がへダビデと約せし時刻に野にいいでゆ
 き三六童にいひけるは走りて我はなつ矢をたづねよと童子はし
 る時ヨナタン矢を彼のさきに發てり三七童子がヨナタンの發ち
 たる矢のところをいたれる時ヨナタン童子のうしろに呼はりて
 いふ矢は汝のさきにあるにあらずや三八ヨナタンまた童子のう
 しろによばはりていひけるは速かにせよ急げ止まるなかれとヨ
 ナタンの童子矢をひろひあつめて其主人のもとにかへる三九さ

れど童子は何をも知ざりき只ヨナタンとダビデ其事をしりたる
 のみ四〇かくてヨナタン其武器を童子に授ていひけるは往けこ
 れを邑に携へよと四一童子すなはち往けり時にダビデ石の傍よ
 り立ちあがり地にふして三たび拜せりしかしてふたり互に接吻
 してたがひに哭くダビデ殊にはなはだし四二ヨナタン、ダビデに
 いひけるは安じて往け我ら二人ともエホバの名に誓ひて願く
 はエホバ恒に我と汝のあひだに坐し我が子孫と汝の子孫のあひ
 だにいませといへりとダビデすなはちたちて去るヨナタン邑に
 いらぬ

第二章一ダビデ、ノブにゆきて祭司アヒメレクにいたるアヒ
 メレク懼れてダビデを迎へこれにいひけるは汝なんぞ獨にして
 誰も汝ともならざるや二ダビデ祭司アヒメレクにいふ王我に
 一の事を命じて我にいふ我が汝を遣はすところの事およびわが
 汝に命じたる所については何をも人にしらするなかれと我某
 處に我少者を出おけり三いま何かに汝の手にあるや我手に五のパン
 か或はなににもある所を與よ四祭司ダビデに對ていひける
 は常のパンはわが手になしされど若し少者婦女をだに愼みて
 ありしならば聖きパンあるなりと五ダビデ祭司に對ていひけ
 るは實にわがいでしより此三日は婦女われらにちかつかず且
 少者等の器は潔し又パンは常の物のごとし今日器に潔きパン
 あれば殊に然と六祭司かれに聖きパンを與たり其はかしこに
 供前のパンの外はパン无りければなり即ち其パンは下る日に熱

きパンをささげんとて之をエホバのまへより取されるなり七其
 日かしこにサウルの僕一人留められてエホバのまへにあり其
 名をドエグといふエドミ人にしてサウルの牧者の長なりハダビ
 デまたアヒメレクにいふ此に汝の手に槍か劍あらぬか王の事急
 なるによりて我は刀も武器も携へざりしと九祭司いひけるは汝
 がエラの谷にて殺したるベリシテ人ゴリアテの劍布に裏みて
 エポテの後にあり汝もし之をとらんとおもはば取れ此にはほか
 の劍なしダビデいひけるはそれにまさるものなし我にあたへよ
 と一〇ダビデ其曰サウルをおそれ立てガテの王アキシのこ
 ろに逃げゆきぬニアキシの臣僕アキシに曰けるは此は其地の
 王ダビデにあらずや人々舞踏のうちこの人のことを歌ひあひ
 てサウルは千をうちころしダビデは萬をうちころすといひしに
 あらずやニダビデこの言を心に蔵め深くガテの王アキシをお
 それ三人々のまへに伴て其氣を變じ執はれて狂人のさまをな
 し門の扉に書き其涎沫を鬚にながれくたらしむ一四アキシ僕に
 云けるは汝らの見るごとく此人は狂人なり何ぞかれを我にひ
 き來るや一五我なんぞ狂人を須ひんや汝ら此者を引きたりてわ
 がまへに狂しめんとするや此者なんぞ吾が家にいるべけんや
 第二章一是故にダビデ其處をいでたちてアドラムの洞穴にの
 がる其兄弟および父の家みな聞きおよびて彼處にくたり彼の
 許に至るニまた惱める人負債者心に嫌ぬ者皆かれの許にあつ
 まりて彼其長となれりかれとともにある者はおよそ四百人な

リ三ダビデ其處よりモアブのミツパにいたりモアブの王にいひ
 けるは神の我をいかなしたまふかを知るまでねがはくはわが
 父母をして出て汝らとともにをらしめよと四遂にかれらをモア
 ブの王のまへにつれきたるかれらはダビデが要書にをる間王
 とともにありき五預言者ガデ、ダビデに云けるは要害に住るな
 かれゆきてユダの地にいたれとダビデゆきてハレテの叢林にい
 たる六爰にサウル、ダビデおよびかれともなる人々の見露さ
 れしを聞けり時にサウルはギベアにあり手に槍を執て岡巒の柳
 の樹の下にをり臣僕ども皆其傍にたてり七サウル側にたてる
 僕にいひけるは汝らベニヤミン人聞けよエサイの子汝らおの
 おのに田と葡萄園をあたへ汝らおのおのを千夫長百夫長と
 なすことあらんやハ汝ら皆我に敵して謀り一人もわが子のエサ
 イの子と契約を結びしを我につげしらす者なしまた汝ら一人
 もわがために憂へずわが子が今日のごとくわが僕をばげまして
 道に伏て我をおそはしめんとするを我につげしらす者なし九時
 にエドミ人ドエグ、サウルの僕の中にたち居りしが答へていひ
 けるは我エサイの子のノブにゆきてアヒトブの子アヒメレクに
 至るを見しが一〇アヒメレクかれのためにエホバに問ひまたか
 れに食物をあたへベリシテ人ゴリアテの劍をあたへたりと一
 一王すなはち人をつかはしてアヒトブの子祭司アヒメレクおよび
 その父の家すなはちノブの祭司たる人々を召したればみな王の
 許にきたるニサウルいひけるは汝アヒトブの子聽よ答へける

は主よ我ここにあり二三サウルかれにいふ汝なんぞエサイの子
 とも我に敵して謀り汝かれにパンと劍をあたへ彼が爲に神
 に問ひかれをして今日のごとく道に伏て我をおそはしめんとす
 るや二四アヒメレク王にこたへていひけるは汝の臣僕のうち誰
 かダビデのごとく忠義なる彼は王の婿にして親しく汝に見ゆる
 もの汝の家に尊まるる者にあらずや二五我其時かれのために神
 に問ことを始めしや決してしからずねがはくは王僕およびわが
 父の全家に何をも歸するなかれ其は僕この事については多少
 いはず何をもしらざればなり二六王いひけるはアヒメレク汝
 必ず死ぬべし汝の父の全家もしかりと二七王旁にたてる前驅
 の人々にいひけるは身をひるがへしてエホバの祭司を殺せかれ
 らもダビデと力を合するが故またかれらダビデの逃たるをしり
 て我に告ざりし故なりと然ど王の僕手をいだしてエホバの
 祭司を撃つことを好まざれば二八王ドエグにいふ汝身をひるがへ
 して祭司をころせとエドミ人ドエグ乃ち身をひるがへして
 祭司をうち其日布のエポデを衣たる者八十五人をころせり二九
 かれまた刃を以て祭司の邑ノブを撃ち刃をもて男女童稚嬰孩
 牛驢馬羊を殺せり三〇アヒトブの子アヒメレクの一一人の子アビ
 ヤタルとなづくる者逃れてダビデにはしり従がふニアビヤタ
 ル、サウルがエホバの祭司を殺したることをダビデに告しかば二
 ニダビデ、アビヤタルにいふかの日エドミ人ドエグ彼處にをり
 しかば我かれが必ずサウルにつげんことを知り我汝の父

の家の人々の生命を喪へる源由となれり二三 汝我とともに居れ
 懼るなかれわが生命を求むる者汝の生命をも求むるなり汝
 我とともにあらば安全なるべし

第二三章一人々ダビデにつけていひけるは視よペリシテ人ケイ
 ラを攻め穀場を掠むとニダビデ、エホバに問ていひけるは我ゆ
 きて是のペリシテ人を撃つべきかとエホバ、ダビデにいひたま
 ひけるは往てペリシテ人をうちてケイラを救へ三ダビデの従者
 かれにいひけるは視よわれら此にユダにあるすら尚ほおそる況
 やケイラにゆきてペリシテ人の軍にあたるをやと四ダビデふた
 たびエホバに問ひけるにエホバ答ていひたまひけるは起てケ
 イラにくだれ我ペリシテ人を汝の手にわたすべし五ダビデとそ
 の従者ケイラにゆきてペリシテ人とたたかひ彼らの家畜を奪ひ
 とり大にかれらをうちころせりかくダビデ、ケイラの居民をす
 くふ六アヒメレクの子アビヤタル、ケイラにのがれてダビデに
 いたれる時其手にエポデを執てくだれり七爰にダビデのケイラ
 に至れる事サウルに聞えければサウルいふ神かれを我手にわた
 したまへり其はかれ門あり關ある邑にいりたれば閉こめらるれ
 ばなりハサウルすなはち民をことごとく軍によびあつめてケイ
 ラにくだりてダビデと其従者を圍んとす九ダビデはサウルのお
 のれを害せんと謀るを知りて祭司アビヤタルにいひけるはエポ
 デを持ちきたれと一〇しかしてダビデいひけるはイスラエルの
 神エホバよ僕たしかにサウルがケイラにきたりてわがために此

邑をほろぼさんと求むるを聞き、ケイラの人々我をかれの手にわたすならんか僕のきけるごとくサウル下るならんかイスラエルの神エホバよ請ふ僕につけたまへとエホバいひたまひけるは彼下るべしとニダビデいひけるはケイラの人々われとわが従者をサウルの手にわたすならんかエホバいひたまひけるは彼らわたすべし、是においてダビデと其六百百人ばかりの従者起てケイラをいで其ゆきつる所にゆけりダビデのケイラをにげはなれしことサウルに聞えければサウルいづることを止たり、四ダビデは曠野にをり要害の地にをりまたジフの野にある山に居るサウル恒にかれを尋ねたれども神かれを其手にわたしたまはざりき、五ダビデ、サウルがおのれの生命を求めんために出たるを見る時にダビデはジフの野の叢林にをりしが、六サウルの子ヨナタンたちて叢林にいりてダビデにいたり神によりて其力を強うせしめたり、七即ちヨナタンかれにいひけるに懼るるなかれわが父サウルの手汝にとどくことあらじ汝はイスラエルの王とならん我は汝の次なるべし、此事はわが父サウルもしれりと、八かくて彼ら二人エホバのまへに契約をむすびダビデは叢林にとどまりヨナタンは其家にかへれり、九時にジフ人ギベアにのぼりサウルの許にいたりていひけるはダビデは曠野の南にある八キラの山の叢林の中なる要害に隠れて我らとともにをるにあらずや、一〇今王汝のくだらんとする望のごとく下りたまへ我らはかれを王の手にわたさんと、二サウルいひけるは汝ら

我をあはれめば願くは汝等エホバより福祉をえよ、三請ふゆきて尚ほ心を用ひ彼の踪跡ある處と誰がかれを見たるかを見きよめよ、其は人我にかれが甚だ機巧く事を爲すを告たれば也、四されば汝ら彼が隠るる逃躲處を皆たしかに見きはめて再び我にきたれ我汝らとともにゆかん彼もし其地にあらば我ユダの郡中をあまねく尋ねて彼を獲んと、五かれらたちてサウルに先てジフにゆけりダビデと其従者は曠野の南のアラバにあるマオンの野にをる、六斯てサウルと其従者ゆきて彼を尋ぬ人々これをダビデに告ければダビデ巖を下てマオンの野にをるサウル之を聞てマオンの野に至てダビデを追ふ、七サウルは山の此旁に行ダビデと其従者は山の彼旁に行ダビデは周章てサウルの前を避んとしサウルと其従者はダビデと其従者を圍んで之を取んとす、八時に使者サウルに来て言けるはペリシテ人國ををかす急ぎきたりたまへと、九故にサウル、ダビデを追ふことを止るかへり往てペリシテ人にあたることをもて人々その處をセラマレコテ、逃岩となづく、一〇ダビデ其處よりのぼりてエンゲデの要害にをる、二四章一サウル、ペリシテ人を追ふことをやめて還りし時人々かれにつけていひけるは視よダビデはエンゲデの野にありと、二サウル、イスラエルの中より選みたる三千の人を率ゐゆきて野羊の巖にダビデと其従者を尋ぬ、三途にて羊の棧にいたるに其處に洞穴ありサウル其足を掩んとていりぬ時にダビデと其従者洞の隅に居たり、四ダビデの従者これにいひけるはエホバが

汝に告て視よ我汝の敵を汝の手にわたし汝をして善と見るところを彼になさしめんといひたまひし日は今なりとダビデすなはち起てひそかにサウルの衣の裾をきり五ダビデ、サウルの衣の裾をきりしによりて後其心みつから責む六ダビデ其從者にいひけるはエホバの膏そそぎし者なるわが主にわが此事をなすをエホバ禁じたまふかれはエホバの膏そそぎし者なればかれに敵してわが手をのぶるは善らず七ダビデ此ことはをもつて其從者を止めサウルに撃ちかかる事を容さずサウルたちて洞を出て其道にゆく八ダビデもまた後よりたちて洞をいでサウルのうしろに呼はりて我主王よといふサウル後をかへりみる時ダビデ地にふして拜す九ダビデ、サウルにいひけるは汝なんぞダビデ汝を害せん事を求むといふ人の言を聴くや一〇視よ今日汝の目エホバの汝を洞のうちにて今日わが手にわたしたまひしことを見たり人々我に汝をころさんことを勧めたれども我汝を惜めり我いひけらくわが主はエホバの膏そそぎし者なればこれに敵してわが手をのぶべからずと一わが父よ視よわが手にある汝の衣の裾を見よわが汝の衣の裾をきりて汝を殺さざるを見ばわが手には悪も罪過もなきことを汝見て知るべし我汝に罪をかせしことなし然るに汝わが生命をとらんとねらふニエホバ我と汝の間を審きたまはんエホバわがために汝に報いたまふべし然どわが手に汝に加へざるべし二三古への諺にいふごとく悪は悪人よりいづされどわが手に汝にくはへざるべし四イス

ラエルの王は誰を趕んとて出たるや汝たれを追ふや死たる犬をおひ一の蚤をおふなり五ねがはくはエホバ審判者となりて我と汝のあひだをさばきかつ見てわが訟を理し我を汝の手よりすくひいだしたまはんことを六ダビデこれらの言をサウルに語りをへしときサウルいひけるはわが子ダビデよ是は汝の聲なるかとサウル聲をあげて哭きぬ七しかしてダビデにいひけるは汝は我よりも正し我は汝に惡をむくゆるに汝は我に善をむくゆ一八汝今日かに汝が我が我に善くなすかを明かにせりエホバ我を爾の手にわたしたまひしに爾我をころさざりしなり一九人もし其敵にあはばこれを安らかに去しむべけんや爾が今日我になしたる事のためにエホバ爾に善をむくいたまふべし二〇視よ我爾が必ず王とならんことを知りまたイスラエルの王國の爾の手によりて堅くたたんことをしるニ今爾エホバをさして我にわが後にてわが子孫を斷すわが名をわが父の家に滅せざらんことを誓へと二三ダビデすなはちサウルにちかふ是においてサウルは家にかへりダビデと其從者は要害にのぼれり

第二章一愛にサムエル死にしかばイスラエル人皆あつまりて之をかなしみラマにあるその家にてこれを葬むれりダビデたちてバランの野にくだるニマオンに一箇の人あり其所有はカルメルにあり其人甚だ大なる者にして三千の羊と一千の山羊もちしがカルメルにて羊の毛を剪り居たり三其人の名はナバルといひ其妻の名はアビガルといふアビガルは賢く顔美き婦なりさ

れど其夫は剛愎にして其爲すところ悪かりきかれはカレブの人なり四ダビデ野のありてナバルが其羊の毛を剪りるを聞き五ダビデ十人の少者を遣はすダビデ其少者にいひけるはカルメルにのぼりナバルにいたりわが名をもてかれに安否をとひかくのごとくいへ願くは壽ながかれ爾平安なれ爾の家やすらかなれ爾が有ところの物みなやすらかなれ我爾が羊毛を剪せざるを聞き爾の牧羊者は我らとともにありしが我らこれを害せざりきまたかれらがカルメルにありしあひだかれらの物何も失たることなし八爾の少者に問へかれら爾につげん願くは少者をして爾のまへに恩をえせしめよ我ら吉日に來る請ふ爾の手にあるところの物を爾の僕らおよび爾の子ダビデにあたへよ九ダビデの少者いたりダビデの名をもつて是らのことばの如くナバルに語りてやめり一〇ナバル、ダビデの僕にこたへていひけるはダビデは誰なるエサイの子は誰なる此頃は主人をすてて遁逃する僕おほし二我あにわがパンと水およびわが羊毛をきる者のために殺したる肉をとりて何處よりか知れざるところの人々にあたふべけんや三ダビデの少者ふりかへりて其道に就き歸りきたりて此等の言のごとくダビデに告ぐ三三是においてダビデ其從者に爾らのおの劍を帶よと言ければ各劍をおぶダビデもまた劍をおぶ而して四百人はかりダビデにしたがひて上り二百人は輜重のところ止れり四時にひとり少者ナバルの妻アビガルに告ていひけるは視よダビデ野より使者をおくりて我

らの主人を祝したるに主人かれらを言れり一五されどかの人々はわれらに甚だ善くなし我らは害をかうむらず亦われら野にありし時かれらとともにをるあひだはなにをも失なはざりき一六我らが羊をかひて彼らとともにありしあひだ彼らは日夜われらの墻となれり一七されば爾今しりてなにをなさんかを考ふべし其はわれらの主人および主人の全家に定めて害きたるべければなり主人は邪魔なる者にして語ることをえずと一八アビガルいそぎパン二百酒の革囊二既に調へたる羊五烘麥五セア葡萄酒百球乾無花果の團塊二百を取て驢馬にのせ一九其少者にいひけるは我先に進め視よ我爾らの後にゆくと然ど其夫ナバルには告げざりき二〇アビガル驢馬にのりて山の僻處にくだれる時視よダビデと其從者かれにむかひてくだりければかれ其の人々にあふ三ダビデかつていひけるは誠にわれ徒に此人の野にて有る物をみなまもりてその物をして何もつせざらしめたりかれは惡をもてわが善にむくゆ三三ねがはくは神ダビデの敵にかなしまた重ねてかくなしたまへ明晨までに我はナバルに屬する總ての物の中ひとりの男をものこさざるべし三三アビガル、ダビデを視しとき急ぎ驢馬よりおりダビデのまへに地に俯して拜し二四其足もとにふしていひけるはわが主よ此咎を我に歸したまへ但し婢をして爾の耳にいふことを得さしめ婢のことはを聴たまへ三五ねがはくは我主この邪なる人ナバル(愚)の事を意に介むなかれ其はかれは其名の如くなればなりかれの名は

ナバルにしてかれは愚なりわれなんぢの婢はわが主のつかはせし少ものを見ざりき二六さればわがしゆよエホバはいくまたなんぢのたましひはいくエホバなんぢのきたりて血をながしたる爾がみづから仇をむくゆるを阻めたまへりねがはくは爾の敵たるものおよびわが主に害をくはへんとする者はナバルのごとくなれ二七さて仕女がわが主にもちきたりしこの禮物をねがはくはわが主の足跡にあゆむ少者にたてまつらしめたまへ二八請ふ婢の過をゆるしたまへエホバ必ずわが主のために堅き家を立たまはん是はわが主エホバの軍に戦ふにより又世にいでてよりこのかた爾の身に悪きこと見えざるによりてなり二九人たちが爾を追ひ爾の生命を求むれどもわが主の生命は爾の神エホバとともに生命の包裹の中に包みあり爾の敵の生命は投石器のうちより投すつる如くエホバこれをなげすてたまはん三〇エホバその爾につきて語りたまひし諸の善き事をわが主になして爾をイスラエルの主宰に命じたまはん時にいたりて三 爾の故なくして血をながしたることも又わが主のみづから其仇をむくいし事も爾の憂となることなくまたわが主の心の責となることなかるべし但しエホバのわが主に善くなしたまふ時にいたらばねがはくは婢を憶たまへ三二ダビデ、アビガルにいふ今日汝をつかはして我をむかへしめたまふイスラエルの神エホバは頌美べきかな三三また汝の智慧はほむべきかな又汝はほむべきかな汝今日わがきたりて血をながし自ら仇をむくゆるを止めたり三四わが

汝を害するを阻めたまひしイスラエルの神エホバは生く誠にもし汝いそぎて我を來り迎はずば必ず翌朝までにナバルの所にひとりの男ものこらざりしならんと三五ダビデ、アビガルの携へきたりし物を其手より受てかれにいひけるは安かに汝の家にかけりのぼれ視よわれ汝の言をききいれて汝の顔を立たり三六かくてアビガル、ナバルにいたりて視にかれは家に酒宴を設け居たり王の酒宴のごとしナバルの心これがために樂みて甚だしく酔たればアビガル多少をいはず何を翌朝までかれにつげざりき三七朝にいたりナバルの酒のさめたる時妻かれに是等の事をつげたるに彼の心そのうちに死て其身石のごとなりぬ三八十日ばかりありてエホバ、ナバルを撃ちたまひければ死り三九ダビデ、ナバルの死たるを聞いていひけるはエホバは頌美べきかなエホバわが蒙むりたる恥辱の訟を理してナバルにむくい僕を阻めて悪をおこなはざらしめたまふ其はエホバ、ナバルの惡を其首に歸し賜へばなりと爰にダビデ、アビガルを妻にめとらんとて人を遣はしてこれとかたはらしむ四〇ダビデの僕カルメルにをるアビガルの許にいたりてこれにかたりいひけるはダビデ汝を妻にめとらんとて我らを汝に遣はすと四一アビガルたちて地にふして拜しいひけるは視よ婢はわが主の僕等の足を洗ふ仕女なりと四二アビガルいそぎたちて驢馬に乗り五人の侍女とともにダビデの使者にしたがひゆきてダビデの妻となる四三ダビデまたエズレルのアヒノアムを娶り彼ら二人ダビデの妻と

なる四四 但しサウルはダビデの妻なりし其女ミカルをガリムの人なるライシの子バルテにあたへたり

第二章一ジフ人ギベアにきたりサウルの許にいたりてひけるはダビデは曠野のまへなるハキラの山にかくれをるにあらずやとニサウルすなはち起ちジフの野にダビデを尋ねんとイスラエルの中より選みたる三千の人をしたがへてジフの野にくだる三サウルは曠野のまへなるハキラの山において路のほとりに陣を取るダビデは曠野に居てサウルのおれをおふて曠野にきたるをさとりければ四ダビデ斥候を出してサウルの誠に來しをしれり五ここににおいてダビデたちてサウルの陣をとれるところいたりサウルおよび其軍の長ネルの子アブネルの寝たるところを見たりすなはちサウルは軍營の中に寝ぬ民其まはりに陣をはれり六ダビデ答へてへテ人アヒメレクおよびゼルヤの子にしてヨアブの兄弟なるアビシヤイにいひけるは誰か我とともにサウルの陣にくだらんかとアビシヤイいふ我汝とともに下らん七ダビデとアビシヤイすなはち夜にいりて民の所にいたるに視よサウルは軍營のうちに寝臥し其槍地にさして枕邊にありアブネルと民は其まはりに寝たりハアビシヤイ、ダビデにいひけるは神今日爾の敵を爾の手にわたしたまふ請ふいま我に槍をもてかれを一度地にさしとほさしめよ再びするにおよばじ九ダビデ、アビシヤイにいふ彼をころすなかれ誰かエホバの膏そそぎし者に敵して其手をのべて罪なからんや一〇ダビデまたい

ひけるはエホバは生くエホバかれを撃たまはんあるひはその死ぬる日來らんあるひは戦ひにくだりて死うせん一わがエホバのあぶらそそぎしものに敵して手をのぶることはきはめて善らずエホバ禁じたまふされどいま請ふ爾そのまくらもとの槍と水の瓶をとれしかして我らさりゆかんとニダビデ、サウルの枕邊より槍と水の瓶を取りてかれらさりゆきしが誰も見ず誰もしらず誰も目を醒さざりき其はかれら皆眠り居たればなり即ちエホバかれらをふかく睡らしめたまふニかくてダビデは彼旁にわたりて遙に山の頂にたてり彼と此とのへだたり大なり二四ダビデ民とネルの子アブネルによははりいひけるはアブネルよ爾こたへざるかアブネルこたへていふ王をよぶ爾はたれなるや三五ダビデ、アブネルにいひけるは爾は勇士ならずやイスラエルの中にて誰か爾に如ものあらんしかるに爾なんぞ爾の主なる王をまもらざるや民のひとり爾の主なる王を殺さんとていりぬ一六爾がなせる此事よからずエホバは生くなんぢらの罪死にあたり爾らエホバの膏そそぎし爾らの主をまもらざればなり今王の槍と王の枕邊にありし水の瓶はいづくにあるかを見よ一七サウル、ダビデの聲をしりていひけるはわが子ダビデよ是は爾の聲なるかダビデいひけるは王わが主よわが聲なり一八ダビデまたいひけるはわが主にゆゑに斯くその僕をおふや我なにをなせしや何の惡き事わが手にあるや一九王わが主よ請ふいま僕の言を聴きたまへ若しエホバ爾を我に敵せしめたまふならばね

がはくはエホバ禮物をつけたまへされど若し人ならばねがはくは其人々エホバのまへのろはれよ其は彼等爾ゆきて他の神につかへよといひて今日我を追ひエホバの産業に連なることをえざらしむるが故なり二〇ねがはくは我血をしてエホバのまへをはなれて地におちしむるなかれそは人の山にて鷓鴣をおぶがごとくイスラエルの王一の蚤をたづねにいでたればなり二二サウルいひけるは我罪ををかせりわが子ダビデよ歸れわが生命今日爾の目に賣と見なされたる故により我々かさねて爾に害を加へざるべし嗚呼われ愚なることをなして甚だしく過てり三ダビデこたへていひけるは王よ槍を視よ請ひとりの少者をしてわたりてこれを取しめよ三ねがはくはエホバおのにおのに其義と眞實とにしたがひて報いたまへ共はエホバ今日爾をわが手にわたしたまひしに我エホバの受膏者に敵してわが手をのぶることをせざればなり二四爾の生命を今日わがおもんぜしごとくねがはくはエホバわが生命をおもんじて諸の艱難のうちより我をすくひいだしたまへ二五サウル、ダビデにいひけるはわが子ダビデよ爾はほむべきかな爾大なる事を爲さん亦かならず勝をえんとしかしてダビデは其道にさりサウルはおのれの所にかへれり

第二七章一ダビデ心の中にいひけるは是のごとくは我早晚サウルの手にほろびん速にペリシテ人の地にのがるにまさることあらず然らばサウルかさねて我をイスラエルの四方の境にたづ

ぬることをやめて我かれの手をのがれんと二ダビデたちておのれとともな六百人のものとともにわたりてガテの王マオクの子アキシにいたる三ダビデと其從者ガテにてアキシとともに住ておのおの其家族とともにをるダビデはその二人の妻すなはちエズレル人アヒノアムとカルメル人ナバルの妻なりしアビガルとともにあり四ダビデのガテににげしことサウルにきこえければサウルかさねてかれをたづねざりき五ここにダビデ、アキシにいひけるは我もし爾のまへに恩を得たるならばねがはくは郷里にある邑のうちにて一のところを我にあたへて其處にすむことを得さしめよ僕なんぞ爾とともに王城にすむべけんやと六アキシ其日チクラグをかれにあたへたり是故にチクラグは今日にいたるまでユダの王に屬す七ダビデのペリシテ人の國にをりし日數は一年と四箇月なりき八ダビデ其從者と共にのぼりゲシユル人ゲゼリ人アマレク人を襲ふたり昔より是等はシユルにいたる地にすみてエジプトの地にまでおよべり九ダビデ其地をうちて男をも女をも生し存さず羊と牛と駱駝と衣服をとりて還りてアキシに至る一〇アキシいひけるは爾ら今日何地を襲ひしやダビデいひけるはユダの南とエラメル南とケ二人の南をかせりと二ダビデ男も女も生存らしめずして一人をもガテにひきゆかざりき其はダビデ恐くは彼らダビデかくなせりといひて我儕の事を告んといひたればなりダビデ、ペリシテ人の地にすめるあひだは其なすとこる常にかくのごとくなりきニアキ

シ、ダビデを信じていひけるは彼は其民イスラエルをして全くおのれを惡ましむされば永くわが僕となるべし

第二十八章 其頃ペリシテ人イスラエルと戦はんとて軍のために軍勢を集めたればアキシ、ダビデにいひけるは爾明かにこれをしれ爾と爾の從者我とともに出て軍にくははるべしニダビデ、アキシにいひけるはされば爾僕のなさんとをせるべしとアキシ、ダビデにさらば我爾を永く我身をまもる者となさんといへりニサムエルすでに死たればイスラエルみなこれをかなしみてこれをそのまぢラマにはうむれりまたサウルは口寄者とト筮師を其地よりおひいだせり四ペリシテ人あつまりきたりてシユネムに陣をとりければサウル、イスラエルを悉くあつめてギルボアに陣をとれり五サウル、ペリシテ人の軍を見しときおそれて其心大にふるへたり六サウル、エホバに問ひけるにエホバ對たまはず夢に因てもウリムによりても預言者によりてもこたへたまはず七サウル僕等にいひけるは口寄の婦を求めよわれそのとこにゆきてこれに尋ねんと僕等かれにいひけるは視よエンドルに口寄の婦あり八サウル形を變へて他の衣服を着ふたり二人の人もなひてゆき彼等夜の間に其婦の所にいたるサウルいひけるは請ふわがために口寄の術をおこなひてわが爾に言ふ人をわれに呼おこせ九婦かれにいひけるはなんぢサウルのなしたる事すなはち如何にかれが口寄者とト筮師を國より斷さりたるを知る爾なんぞ我を死しめんとてわが生命を亡す

謀計をなすや一〇サウル、エホバを指てかれに誓ひいひけるはエホバは生く此事のためになんぢ罪にあふことあらじ一婦いひけるは誰を我なんぢに呼起すべきかサウルいふサムエルをよびおこせニ婦サムエルを見て大なる聲にてさけびいだせりしかして婦サウルにいひけるは爾なにゆゑに恐るるなかれ爾なすなはちサウルなりニ王かれにいひけるは恐るるなかれ爾なにを見しや婦サウルにいひけるは我神の地よりのぼるを見たり一四サウルかれにいひけるは其形容は如何彼いひけるは一人の老翁のぼる其人明衣を衣たりサウル其人のサムエルなるをしりて地にふして拜せりニサムエル、サウルにいひけるは爾なんぞ我をよびおこして我をわづらはすやサウルこたへけるは我いたく悩むペリシテ人我にむかひて軍をおこし又神我をはなれて預言者によりても又夢によりてもふたたび我にこたへたまはずこのゆゑに我なすべき事を爾にまなばんとて爾を呼りニ六サムエルいひけるはエホバ爾をはなれて爾の敵となりたまふに爾なんぞ我にとふや一七エホバわれをもて語りたまひしことをみづから行ひてエホバ國を爾の手より割きはなち爾の隣人ダビデにあたへたまふ一八爾エホバの言にしたがはず其烈しき怒をアマレクにもらさざりしによりてエホバ此事を今日爾になしたまふ一九エホバ、イスラエルをも爾とともにペリシテ人の手にわたしたまふべし明日爾と爾の子等我ともなるべしまたイスラエルの陣營をもエホバ、ペリシテ人の手にわたしたまはん

と二三 サウル直ちに地に伸びたふれサムエルの言のために痛く
おそれまた其力を失へり其はかれ其の一日一夜物食ざりければな
り三 かの婦サウルにいたり其痛く慄くを見てこれにいひける
は視よ仕女爾の言をききわが生命をかけて爾が我にいひし言
にしたがへり三 されば請ふ爾も仕女の言を聽て我をして一口
のパンを爾のまへにそなへしめよしかして爾くらひて途に就く
時に力を得よ三 されどサウル否みて我は食はじといひしを其
僕および婦強ければ其言をききいれて地より立あがり床のう
へに坐せり二四 婦の家に肥たる犢ありしかば急ぎて之を殺しま
た粉をとり搏て酔いれぬパンを炊き三 五 サウルのまへと其僕等
のまへに持ちきたりければ彼等くらひて立ちあがり其夜のうち
にされり

第二九章 一 爰にペリシテ人其軍をことごとくアペクにあつむイ
スラエルはエズレルにある泉水の傍に陣をとるニペリシテ人の
君等あるひは百人或は千人をひきゐて進みダビデと其従者は
アキシとともに其後にすすむ三 四 ペリシテ人の諸伯いひけるは
是等のヘブル人は何なるやアキシ、ペリシテ人の諸伯にいひけ
るは此はイスラエルの王サウルの僕ダビデにあらずやかれ此
日ごろ此年ごろ我とともにをりしがその逃げおちし日より今日
にいたるまで我かれの身に咎あるを見ずと四 五 ペリシテ人の諸伯
これを怒る即ちペリシテ人の諸伯彼にいひけるは此人をかへら
しめて爾が之をおきし其所にふたたびいたらしめよ彼は我ら

とともに戦ひにくだるべからず然ば彼戦争においてわれらの敵
とならざるべしかれ其主と和がんとせば何をもてすべきやこの
人々の首級をもてすべきにあらずや五 是はかつて人々が舞踏の
中にて歌ひあひサウルは千をうちころしダビデは萬をうちころ
すといひたるダビデにあらずや六 アキシ、ダビデをよびてこれ
にいひけるはエホバは生くまことになんぢは正し爾の我とも
に陣營に出入するはわが目には善と見ゆ其は爾が我に來りし日
より今日にいたるまで我爾の身に惡き事あるを見ざればなり
然ど諸伯の目には爾よからず七 されば今かへりて安かにゆきペ
リシテ人の諸伯の目に惡く見ゆることをなすなかれ八 九 九
アキシにいひけるは我何をなせしやわが爾のまへに出し日より
今日までに爾何を僕の身に見たればか我ゆきてわが主なるわ
うの敵とたたかふことをえざると九 一〇 アキシこたへてダビデにい
ひけるは我爾のわが目には神の使のごとく善きをしるされど
ペリシテ人の諸伯かれは我らとともに戦ひにのぼるべからずと
いへり一〇 されば爾および爾の主の僕の爾とともにきたれる者
明朝夙く起よ爾ら朝はやくおきて夜のあくるに及ばざるべ
し二 是をもてダビデと其従者ペリシテ人の地にかへらんと朝
はやく起てされりしかしてペリシテ人はエズレルにのぼれり
第三〇章 一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一〇 一〇 一〇 一〇
ク人すでに南の地とチクラグを侵したりかれらチクラグを撃ち
火をもて之を燬き三 其中に居りし婦女を虜にし老たるをも若き

をも一人も殺さずして之をひきて其途におもむけり三ダビデと
 其従者邑にいたりて視に邑は火に燬けその妻と男子女子は虜に
 せられたり四ダビデおよびこれともある民誓をあげて哭き
 終に哭く力もなきにいたり五ダビデのふたりの妻すなはちエ
 ブレル人アヒノアムとカルメル人ナバルの妻なりしアビガルも
 虜にせられたり六時にダビデ大に心を苦めたり其は民おのおの
 其男子女子のために氣をいらだてダビデを石にて撃んといひた
 ればなりされどダビデ其神エホバによりておのれを上げませり
 七ダビデ、アヒメレクの子祭司アビヤタルにいひけるは請ふエ
 ボデを我にもちきたれとアビヤタル、エボデをダビデにもちき
 たるハダビデ、エホバに問ていひけるは我此軍の後を追ふべき
 や我これに追つくことをえんかとエホバかれにこたへたまはく
 追ふべし爾かならず追つきてたしかに取もどすことをえん九ダ
 ビデおよびこれともなる六百人の者ゆきてベソル川にいた
 れり後にこのれる者はここにとどまる一〇即ちダビデ四百人
 をひきみて追ゆきしが憊れてベソル川をわたることあたはざる
 者二百人はとどまれり一衆人野にて一人のエジプト人を見こ
 れをダビデにひききたりてこれに食物をあたへければ食へりま
 たこれに水をのませたりニすなはち一段の乾無花果と二球の
 乾葡萄をこれにあたへたり彼くらひて其氣ふたたび爽かになれ
 りかれは三日三夜物をもくはず水をものまざりしなりニダビ
 デかれにいひけるは爾は誰の人なる爾はいづくの者なるやかれ

いひけるは我はエジプトの少者にて一人のアマレク人の僕なり
 三日まへに我疾にかかりしゆゑにわが主人我をすてたり一四我
 らケレテ人の南とユダの地とカレブの南ををかしまた火をもて
 チクラグをやけりニ五ダビデかれにいひけるは爾我を此軍にみ
 ちびきくたるやかかれいひけるは爾我をこそさすまた我をわが
 主人の手にわたさざるを神をさして我に誓へ我爾を此軍にみ
 ちびきくだらん六かれダビデをみちびきくだりしが視よ彼等
 はペリシテ人の地とユダの地より奪ひたる諸の大なる掠取物の
 ためによるこびて飲食し踊りつつ地にあまねく散ひるがりて居
 る一七ダビデ暮あひより次日の晩にいたるまでかれらを撃しか
 ば駱駝にのりて逃げたる四百人の少者の外は一人ものがれた
 るもの无りき一八ダビデはすべてアマレク人の奪ひたる物を取
 りもどせり其二人の妻もダビデとりもどせり一九小きも大なる
 も男子も女子も掠取物もすべてアマレク人の奪さりし物は一も
 失はずダビデことごとく取かへせりニ〇ダビデまた凡の羊と牛
 をとれり人々この家畜をそのまへに驅きたり是はダビデの
 掠取物なりといへりニかくてダビデかの憊れてダビデにした
 がひ得ずしてベソル川のほとりに止まりし二百人の者のとこ
 るにいたるに彼らダビデをいでむかへまたダビデともなる民
 をいでむかふダビデかの民にちかづきてその安否をたづぬニ
 ダビデとともにゆきし人々の中の悪く邪なる者みなこたへて
 いひけるは彼等は我らとともにゆかさざりければ我らこれに取りも

どしたる掠取物をわけあたふべからず唯おのおのにその妻子を
 あたへてこれをみちびきさらしめん^三 ダビデ言けるはわが
 兄弟よエホバ我らをまもり我らにせめきたりし軍を我らの手
 にわたしたまひたれば爾らエホバのわれらにたまひし物をしか
 するは宜からず^四 誰か爾らにかかることをゆるさんや戦ひに
 くだりし者の取る分のごとく輜重のかたはらに止まりし者の取
 る分もまた然あるべし共にひとしく取るべし^五 この日よりの
 ちダビデこれをイスラエルの法となし例となせり其事今日にい
 たる^六 ダビデ、チクラグにいたりて其掠取物をユダの長老なる
 其朋友にわかちおくりて曰しめけるは是はエホバの敵よりとり
 て爾らにおくる饋物なり^七 ベテルにをるもの南のラモテにを
 るものヤツテルにをる者^八 ハアロエルにをる者シフモテにをる
 ものエシテモにをるものニラカルにをるものエラメル人の邑
 にをるものケ二人の邑にをるもの^{三〇} ホルマにをるものコラシ
 ヤンにをるものアタクにをるもの^{三二} ヘブロンにをるものおよ
 びすべてダビデが其従者とともに毎にゆきし所にこれをわかち
 おくれり

第三章一ペリシテ人イスラエルと戦ふイスラエルの人々ペリ
 シテ人のまへより逃げ負傷者ギルボア山に斃れたり^二 ペリシテ
 人サウルと其子等に攻よりペリシテ人サウルの子ヨナタン、ア
 ビナダブおよびマルキシユアを殺したり^三 戦はげしくサウル
 にせまりて射手の者サウルを射とめければ彼痛く射手の者のた

めに苦しめり^四 サウル武器を執る者にいひけるは爾の劍を抜き
 其をもて我を刺とほせ恐らくは是等の割禮なき者きたりて我を
 刺し我をばづかしめんと然とも武器をとるもの痛くおそれて肯
 ぜざればサウル劍をとりて其上に伏したり^五 武器を執るものサ
 ウルの死たるを見ておのれも劍の上にふしてかれとも死に
 六かくサウルと其三人の子およびサウルの武器をとるもの並に
 其従者みな此日俱に死り^七 イスラエルの人々の谷の對向にをる
 もの及びヨルダンの對面にをるものイスラエルの人々の逃るを
 見サウルと其子等の死るをみて諸邑を棄て逃げればペリシテ人
 きたりて其中にをる^八 明日ペリシテ人戰没せる者を剥んとてき
 たりサウルと其三人の子のギルボア山にたふれをるを見たり^九
 彼等すなはちサウルの首を斬り其鎧甲をはぎとりペリシテ人の
 地の四方につかはして此好報を其偶像の家および民の中につ
 げしむ^{一〇} またかれら其鎧甲をアシタロテの家におき其體をベ
 テシヤンの城垣に釘けたり^{一一} ヤベシギレアデの人々ペリシテ
 人のサウルになしたる事を聞きしかば^{一二} 勇士みなおこり終夜
 ゆきてサウルの體と其子等の體をベテシヤンの城垣よりとりお
 るしヤベシにいたりて之を其處に焚き^{一三} 其骨をとりてヤベシ
 の柳樹の下にはうむり七日のあひだ斷食せり